

第8回 越後つまり100km徒步の旅

報 告 書



開催期間 2016年8月7日（日）～8月11日（木・祝）

越後つまみ100km徒步の旅

こう
綱
りょう
領

わたし すばら ちから
私には素晴らしい力があります。

かのうせい
はてしない可能性があります。

なにごと よわね は
何事にもくじけず、弱音を吐かず

でき でき かなら でき せいしん
出来る、出来る、必ず出来る」の精神で、

いっぽいっ ぱ ぜんしん かなら とうたつ
一歩一歩、前進すれば、必ずゴールに到達する

こと し
事を知っています。

わたし おお ひと しそん めぐ ゆうけい
私は、多くの人たちや自然の恵みをはじめ有形

むけい さまざま ささ い
無形、様々な支えがあって生かされていることへ

かんしゃ
感謝します。

じんせい しれん くろう
さらには、人生においての試練や苦労にも

かんしゃ つよ やさ にんげん
感謝できる、強く、優しい人間です。

越後つまみ100km徒步の旅

こころ
心
え
得

せっつきよくてき し せ い
積極的な姿勢

けん きょ こころ
謙虚な心

せい りり とん
整り頓

じ かん かん
時間管理

ぜん いん きん
全員参加

いち にち いつ
一日一生

御 挨 捶

第8回越後つまり100km徒歩の旅
団長 澤野 崇

今年は、様々な経験が出来る素晴らしい気候でした。初日は手元の温度計が40度を超える猛暑の中で歩かせていただきました。3日目は一番難関なコースに激変の天候が重なりました。過去7回で経験したことがない豪雨、晴天、豪雨、晴天、豪雨、晴天・・・と何回カッパを脱ぎ着したことか。太陽が出ると暑く、雨が降ると寒い、おまけに風でテントが飛んでしまうトラブルもあり、ブルーシートが水浸しで立ったまま休憩とか・・・改めて、天候の有り難さを感じました。過去と同じ100kmはありません、今年の出来事がまた一つ我々の経験となりました。

5月下旬より上越から時間とお金をかけて毎週研修に通ってくれた大学生スタッフ、小学校時代に参加した経験がある高校生スタッフ、皆さんのおかげをもって無事に旅を終えることが出来ました。研修に一生懸命取り組み準備してきた君たちは、昨年同様で納得することなく、一つ上のステージを目指してくださいました。達成できた人、悔しい思をした人がいるでしょう。どちらにせよ、チャレンジした経験は君たちの将来の夢達成の糧となっていることでしょう。ここで終わることなく、学校や私生活に置き換えて「自立・自律」へ向けて行動していってください。

大学時代参加した学生スタッフが、社会人スタッフとしてお手伝いに来てくれました。また、地域の社会人の皆様の多大な協力も頂きました。そんな皆様の支えがあり歩かせていただいている。ご協力ありがとうございました。

年々沿道で応援してくださる地域の方が多くなってきております。今年もたくさんの方の声援を頂きました。声援がある度に参加者は元気になり大きな声で歩調コールを行いました。逆に、元気に歩いている姿を見て地域の皆様が笑顔になるという、プラススパイラルが見られました。100kmの隊列が通った後には、笑顔があふれるなんて素敵ですよね。

結びに、越後つまり100km徒歩の旅は、行政・医療・報道各機関、学校関係者、地元企業・団体、社会人スタッフ、十日町JCメンバー、同じ志で100km徒歩の旅を行っている全国100km徒歩の旅の同志、そして、参加頂いた小学生、事前準備をしっかりと行っていただきました保護者の皆様のご協力と支えがあって開催できました。この場をお借りして御礼申し上げます。これからも、地域教育の一つとして継続してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

団員のみんなへ

とても暑く、時には豪雨という100kmの夏が終わり、すっかり涼しい秋になりましたが皆さん元気に過ごしていますか。100km本番の時のように、時間を守って一日一日を大切に使っていますか。大きな声で挨拶していますか。

みんなは、100kmという長い長い道のりでも、あきらめず一歩一歩足を前に出して進んでいけば、いつか必ずゴールに到着する事を経験しましたね。辛そうにしている仲間に「頑張ろう！」と自分が苦しくても応援してくれましたね。団長は、毎年その姿に感動しています。今年応援してもらった人は、次は応援する側になりましょう。お互い様ですからね。みんなが安全に歩けるように支えてくれた学生スタッフ、社会人スタッフを忘れてはいけません。一人で歩いたのではなく多くの支えのなかで歩けたのです。

みんなには「素晴らしい力」があるのです！100kmで出来たことは、みんなにとってはもう出来て当たり前です。「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」などは家でも、学校でも積極的に行いましょう！

最後に、100km歩くことを経験させてくれた家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたかな。まだなら、今からでも大きな声で伝えましょう。

第8回越後つまり100km徒步の旅日程表

月日 時間	8月7日(日) 1日目 キナーレ — 津南小学校		8月8日(月) 2日目 津南小学校 — 津南小学校		8／9(火) 3日目 津南小学校 — 田沢小学校		8／10(水) 4日目 田沢小学校 — 上野小学校		8月11日(祝) 5日目 上野小学校 — キナーレ	
4:00										
4:30			スタッフ	起床	スタッフ	起床	スタッフ	起床	スタッフ	起床
5:00			小学生	起床	小学生	起床	小学生	起床	小学生	起床
5:30	越後交流館キナーレ	スタッフ集合								
6:00		津南小学校	出発	津南小学校	出発	田沢小学校	出発	上野小学校	出発	
6:30		受付開始								
7:00		出発式	旧中津小学校	朝食・給水	越後田中駅	朝食・給水	ミオン中里	朝食・給水	小泉工業倉庫	朝食・給水
7:30										
8:00		出発	石坂橋手前	水かけ	空き地	水掛け	貝野小学校付近	水かけ		
8:30		諏訪神社	安全祈願祭				姿集落	休憩・給水	谷内製材	水かけ
9:00			ひまわり広場	休憩・給水	マウンテンパーク津南	休憩・給水			笹山陸上競技場	休憩・給水
9:30	旧十日町消防署前	水かけ					涌井工業	水かけ		
10:00	新潟ソフトラクチャ	休憩・給水	調整池付近	水かけ	展望台	休憩・給水				
10:30	上島	水かけ	龍ヶ窪駐車場	休憩・給水			吉田公民館	休憩・給水	太子堂付近	水かけ
11:00	富剛建設	昼食・給水	芦ヶ崎小学校	昼食・給水	マウンテンパーク津南	昼食・給水	吉田小学校	水かけ	神宮寺	昼食・給水
11:30							千手コミュニセン	昼食・給水		
12:00									村山興業機材センター	水かけ
12:30	中里広場	水かけ			空き地	水かけ			十日町市役所裏公園	休憩・給水
13:00	服部総業	休憩・給水	左側駐車場	水かけ	雪国	休憩・給水	霜条	水かけ		一言コール
13:30									駅通り～本町	
14:00	大地	休憩	右側駐車場	休憩・給水	外丸空き地	水かけ	ナカゴグリーンパーク	休憩・給水	越後交流館キナーレ	ゴール
14:30			津南町役場	水かけ	辰ノ口神社	休憩・給水				
15:00	津南小学校	ゴール	津南小学校	ゴール			上野小学校	ゴール	クロス10 中ホール	解団式
15:30					清津開発	水かけ				
16:00	龍ヶ窪	温泉		プール	田沢小学校	ゴール		プール		
16:30										
17:00										
17:30					林屋旅館	風呂				
18:00		夕食		夕食		夕食		夕食		
18:30										
19:00	レクリエーション		レクリエーション		レクリエーション		旅立ちの会			
19:30										
20:00	健康チェック・日記		健康チェック・日記		健康チェック・日記		健康チェック・日記			
20:30										
21:00	消灯・就寝		消灯・就寝		消灯・就寝		消灯・就寝			
21:30	スタッフ	ミーティング	スタッフ	ミーティング	スタッフ	ミーティング	スタッフ	ミーティング		
22:00										
22:30										
23:00										
23:30										
0:00	スタッフ就寝		スタッフ就寝		スタッフ就寝		スタッフ就寝			

コース図 http://echi100km.main.jp/2016/2016_100km.html

参加者名簿

1班				2班			
氏名	学校名	学年	回数	氏名	学校名	学年	回数
高橋 鼎	西小	6	3	野沢 アテネ	西小	6	2
小林 鷲太	西小	6	1	阿部 悠貴	東小	5	2
桑原 侑大	東小	5	2	桑原 蒼太	東小	5	2
大渕 鷲斗	東小	5	2	本木 智基	水沢小	5	2
小海 鷲太	千手小	5	1	南雲 太斗	千手小	4	1
和久井 士	橘小	4	1	福島 祐樹	中条小	4	1

3班				4班			
氏名	学校名	学年	回数	氏名	学校名	学年	回数
澤野 優	東小	5	2	熊木 なみき	西小	6	2
小林 美優	東小	5	2	本間 遥菜	東小	5	2
藤田 はな	貝野小	5	1	恩田 千穂	東小	5	2
上村 茉菜	水沢小	4	1	高橋 和奏	上野小	5	1
小海 桃花	西小	4	1	島田 芽衣	西小	4	1

学生スタッフ名簿

担当	氏名	学校	学年
団長補佐	胡みどり	新潟県立看護大学	2年
1班リーダー	山田知可子	新潟県立看護大学	2年
1班サブリーダー	阿部七海	松代高等学校	2年
2班リーダー	浅野友里奈	新潟県立看護大学	2年
2班サブリーダー	渡橋香月	新潟県立看護大学	2年
3班リーダー	小林澪奈	川西高等学校	2年
3班サブリーダー	松尾友紀	上越教育大学	1年
4班リーダー	長橋和佳奈	新潟県立看護大学	2年
4班サブリーダー	上村亮平	十日町高等学校	3年
セーフティー	日下啓雄	上越教育大学	2年
	福島治樹	十日町高等学校	3年
	阿部茉友	新潟県立看護大学	2年
	宮田あすか	堀之内高等学校	2年
広報記録	笠原萌菜美	新潟県立看護大学	3年
	長澤瑞奈	新潟県立看護大学	2年
	市川慎吾	十日町高等学校	3年
	丸山徹生	十日町高等学校	3年
生活給水	仁多見 佳野	新潟県立看護大学	1年
	渡辺春佳	上越教育大学	2年
	村山凜太郎	十日町高等学校	3年
	水上晴葵	十日町高等学校	3年
	村松みづき	信州医療福祉専門学校	2年

参加者感想文

参加者 1班 名前 高橋 隼

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、最後の100km徒步(こ出て感したこと
は1年目と2年目とはぜんぜんちがいました。
ぼくは、最後なんだからいいかのこらないように声
を出しながら歩きました。でも2日目の夜
に体調をくずしてしまい、3日目を歩けなか
時は、とてもくわしかたです。それでも3日目
の夜には、ひとりみんなに「おかえり」といわれ
た時は、うれしかったです。その日に、家のありが
たみと友だちが家矢にさえられていて、こゝをじかん
ました。4日目が5日目はぐあいがあるくあります。元
気にゴールできた時は、なんだかもやもや
していましたけど、うねしかったです。

3日目のあるけなかた分は、8月17日にお父さん
や学生スタッフのは、ちやねーちゃん、ななみん、あさり、京ちゃんと歩きました。

300kmをあさいたことになり、すこく疲れましたが
です。団長ありがとうございました。

100km徒步は最高でした。

参加者感想文

参加者 1 班 名前 小林 岩太

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

ほくは、100徒步で何も分からなかったのですぐ不安でした。でも班の学生スタッフが教えてくれたので4泊5日すごいことができました。すごく苦い時がありましたが、もう大めたと思いました。でもずっと歩き続けたり意外と行けるものだと思いました。ゆっくり休めない時もありました。そんな時学生スタッフやセーフティの人たちがはげましてくれました。あと何kmなどいろいろなことを伝えてくれました。給水班の人たちいつも気持ちいい水かけをしてもらえて感謝しています。ゲームもジースもない4泊5日でしたがやりることもたくさんありました。いやがったので意外と行くと分かりました。もっと前から100徒步に参加すればよかったです。

参加者感想文

参加者 1班 名前 乗原、脩大

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

最初は、昨年も100km徒步の旅に出たので、"だいじょうぶ"と思ったけれど、三日目は、27kmで山だったのに大変でした。その日は、どちらかと言うと下りの方がつかれると思いました。理由は、後ろに体重がかかって足全体に体重がかからなくて足がいたからかです。

次は、歩調コールの声でした。理由は、自分は、一人のリーダーなのでみんなよりも声が大きくなりといけないからです。だからいつも大きな声で歩調コールをしました。

参加者感想文

参加者 1 班 名前 大瀬
大瀬

- 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

今年で200kmになってしまった人が多いですがさを今年はつき
して100kmを徒步できてうれしかったです年めい
ながらつたことをかんじてたのしかったです

参加者感想文

参加者 1 班 名前 小海風太

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくが100km徒步の旅の中でとくにつらかった日は、2日目と、3日目です。2日目の日は気温があついプラスひまわりばたけに、行く途中の山道がとてもつらかったです。のぼると中、きゅうけいはあつたけどあしかばんパンですごくつらいと感じました。でもひまわり畑につくと、たくさんのひまわりがあってつかれかちよとされました。しかも冷たいタオルをもらつたら足もなおりました。そしてかえりのくだりは、足にふた人がかかるので、足をもんでもらわないと歩くのかやつくらい足がいたくなりました。でもがんばっておりてきました。

3日目はいちばんきついのになしとその日は大雨ですぐつらかったです。傘はぬれておもたくなるしきつ山道を歩くし、すぐつらかったです。でもまけたくないきもちがつよかったです。なんとかたまりつけました。そして昼ごはんをたべるとすごくおいしかったです。昼ごはんのおかげで体によく

もかいいがくしたし山道をくだる体りなくもよんだ人で”した。山道をくだる
途中はてんきもあるかせず“よがったで”す。この100km徒步の旅
でたくさんのこときました。来年もでききたらやりたい
で”す。

参加者感想文

参加者 | 班 名前 和久井士

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

みんなで協力していきました。さいしは、楽しめにしていました。でも歩きはじめて、足のからかいたくなったりがたが、たくさんありました。だから毎日、コールドスプレーをいひました。一番つらかった所は、坂が多かったです。そしてマウントハーケンなんの坂です。そして100kmとほど友だちがいはいてきました。また来年も100km徒步に出たいです。スタッフのみなさん1日間おせわしてくれてありがとうございました。

参加者感想文

参加者 2班 名前 野澤アテネ

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

100km徒步の旅は、ぼくは、6年がめで最後になってしましましたが、無事完歩できて良かったです。去年と今年を比べると、今年は野菜や朝・お茶の配布が少なくて楽でした。

2004年くらいの生徒じゃなくてさかの体験ですね、でも歩きのつらさと楽しさがわかったりました。でも学生スタッフが全員サポートしてくれたおかげで完歩することができました。みんなでいきました。ところ3日目は26kmという高い山がありましたが、雨がふっていました。でも、さかの精神でいきました。^{さかの}無事のりえられました。

そして、~~整~~整と人も大変でした。ぼくはせいいりせいいとくかい苦手です。でも百倍ではまよまよくできました。

プールも楽しかかったです。あと一日目の入浴のときは他の男子ともしゃべりましたが、か入っててホントにあきました。でも王のみんなは明るく、元のもしやつたです。

百徒は自分の限界を引き出すだけでなく友情先輩のこと学んで、とかいためで実行しました。そして、中学生スタッフが決まりました。

参加者感想文

参加者 2 班 名前 阿部 悠貴

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

いんないきつりこよても十かかしかたり
みんなではけましたえたり それ
はいんないつらいことかあ
てもでもしてることをしりまし
た。100km徒步の方々ではあるも
に3日にとが2つあります。1つ目
はレクリエーションです。マスク
じやんけんやじんけんち、たのを
ゆりまでたが一番おもしろがたの
は木こりソリストです。木こりやリ
ストの動きをやたりするのがお
もしろがてです。27日はフールで
す。フールでシネいたりもねん
写真をとったり流れます。11月終
るがおもしろがてです。

小学校5年

阿部 悠貴

参加者感想文

参加者 2 班 名前 桑原 蒼大

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100km徒步の旅を通して時間管理をとくに学びました。理由は、ぼくが時間を守らないとみんなにめり込むになります。だから時間をしっかり守めて、みんなにこのりにくにならないようにしようとぼくは100km徒步の旅を通して、一番に感じた事です。(ぼくは、100km徒步の旅で楽しかったことか) 3つあります。

一つ目は、レクリエーションです。理由はマスルミンケンやしんげんちやネーミングホールみたいなものがなくてても楽しかったからです。二つ目は、プールです。理由はみんなでおにぎりなどをしてからです。三つ目は、りゅうがくぼの温泉です。理由はあらう、うの中に外と中がけ引き

ができるまじかあつて楽しかったからです。

100km徒步の旅サイコー

参加者感想文

参加者 2 班 名前 本木ともき

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100km徒步の方々に出て
つかれたこと、楽(が)ったこと、怒(おこ)
ること、またやりたいことがあります。
つかれたことは、3日目です、
なぜかというと、きよりは100徒步
の中でも一番長く25~26kmをあ
たしさかみちも多かったです。
楽(が)ったことは、5日目の一言コール
です。なぜかというと、三重発で来
年もこうとがぶつた「アリビーツバク
と言った人からです。
怒(おこ)ったことは、ごはんのときやさいだ
けのこした人がいたからです。
またやりたいことは、1kmでやった
マッスル(じゅんげん)です。また来年もきたいです

参加者感想文

参加者 2 班 名前 南雲太斗

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

ほくは 100km をまるいて 思った
ことが いっぱいあります。
楽しかったけどつらかったです。
楽しかったことは、プールです。
つらかったことは、のぼりさかです。
本当にスタッフのみなさんありがとうございました。

参加者感想文

参加者 2 班 名前 福島祐樹

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

みんなと一緒に歩きながら歩く楽しさ
（かた）がよくわかる。
いつもしないことをしたり、いつもより大きな声
でさ（なんだ）して、のどが痛いたった。
最終日には自分最大（人の声をだし）
でも声がきこえなくてもすっちゃんやあさり
にはげまされてかんばられたから、
すっちゃんやあさりには感謝していくと、
ちゃんとあさりがいてくれてうれしいです。徒步
歩にしてよかったです。5年生も3年生も2300m
完歩したいです。最終冬日にはと中ひ頭が
いたくなってしまでやすんだけじめずい
つけてよかったです。

参加者感想文

参加者 3 班 名前 澤野 優

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

私は、この100km徒步の旅をする前は、とても、整理がきらうで、お母さんにあぶれながらやっていました。

でも、この100km徒步の旅をけいけんした後、とても整理がちよとすきになりました。

100km徒步の旅を始め、仲良くする時間や限界へ挑戦の時間もありみんなとのうれあいの時間を作り、みんなで、完歩できるのは、社会人スタッフのみなさま、学生スタッフのみなさまのおかげです。

5日間ありがとうございました。

本当に感謝しています！

澤野 優

参加者感想文

参加者 3 班 名前 小林 美優

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

今年は、2回目の参加でした。コースは去年とちがったけど、あくまでも歩けたので良かったです。それに、初めての参加の人かいじつ、その人があくまでいる時サポートしてあけたりしました。それに、体調があまり良くない人もいて、その子もアドバイスをしたり、サポートしたりしました。そしたら、ゆきりんやれーちゃんに、「ありがとうございます」と言われてうれしかったです。それに歩調コーナーではいい声を出しました。そしたら声が聞かれてしまつたけど、みんなに聞こえるくらい大きな声が出せたので良かったです。来年も参加ができるたら参加したいです！

参加者感想文

参加者 3 班 名前 藤田 はな

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

私は初めて100km徒步の旅へ参加してみて、初めて自分のことを自分でみてみてとてまたいいへんでした。自分のリュックの中を入れがえたり、水をのまなくするから、水をたくさんひだりして、いいへんでした。でも、歩く時は、あまりつかれませんでいた。みんなとば話し合たり、大きい声で歩き声を立てたのが、ふつうの道より坂のほうか樂だったと感じました。ゆる時もみんなとがたきてゆく、とても樂しかったです。ゴールの時はみんなで完走出来ってうれしがったです。ゴールしてあえたら、4泊5日は長いけど、お達がいたからか、とても短く感じました。

参加者感想文

参加者 3班 名前 上村栞菜

■ 100km歩行の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

雨がふっていてつらかったりのほり坂もつら
かたです。とくにつらかったのは、ひまわりはたけ
にいく坂です。と中でかさのひもが風でとれて
何日もちがうかをつかっていました。

夜は虫が多いはいたので銀マットに虫よけスプレー
を毎日していました。夜下の温計をはからてぐる
らいでヒエピタをはしていました。

朝ごはんはいつもからしくてたけど眉ごはん
は、いつものことしていたので来年はもっと食べたい
と思います後半からはれつのとき、一番前でした。

同じ五班の子があくれている時手をひばてあげ
ました。来年も出たいです。

参加者感想文

参加者 3 班 名前 小海 桃花

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

友だちがたくさんできました。仲よく
てきてよかったです。大きな声をだす
とつかれにくいくことが私は
もいました。つなん小学校ではひき
ものにたくさん虫かついていました
んなが「やた」といっていましたか副
リーターは虫も友だちみんな友だち
といってくれてほんとそなたな
思いました。3日目の時26kmくらい
歩きました。でも、学生スタッフのかたが
たが「ももならでさる」といってくれた
ので、がんばりました。ほんの友だちが
おくれていた時などもおしてくれたりして
くれてとてもうれしかったです。
ねる時も学生スタッフのみなさんが足大
夫というてくれました。

5日間ありがとうございました。

来年もてるぞ!!

参加者感想文

参加者 4班 名前 熊木 なみき

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

私が100km徒步の旅で感じた事は3日のマウンテンパークを歩いた時です

その日は、雨が降っていて、かばを着ながら歩いていたので、とても蒸し暑がぬし途中で雨がやんたらと思うたらまた降ってきて、かばを着たり脱いだりするか、大変でした。天候が悪い時

には、雨が止むまで待つ事もありました。でも無事に頂上にたどり着く事ができ、頂上か

らの景色が綺麗で登って良かったと感じ事が出来ました。その後も雨が降ったり

やんだりはしましたが、無事田沢小学校にたどり着く事出来ました。その後も雨が降ったり

山に登った後の気分は、とても気持ち良かったです。5日頃になると、早く家族

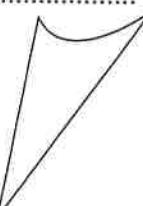
に会いたいとか、「みんなと一緒にいたくない」と色々な気持ちになりました。そして

残り約2km(30分)になり、みんなの歩調コールも最高潮になりました。コール直前

になむり5日間の努力が思い出され、コールした時には達成感や嬉しい気持ち

が湧き上りました。5日間私たちを励ました、スタッフ

の皆さんに感謝します



参加者感想文

参加者 4 班 名前 本間 遙菜

- 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

私はこの100km徒步の方旅は、2回目の参加でした。2回目なので1度けいけんしているからあまり心配はながったけど、今年はどこもつらい坂を登ると聞いていたのできんちゅうしていました。だけじ1日目が始まり歩き始めるときんちゅうもなかたかのようにふ、飛んでいいスタートを切ることができました。

この5日間ではつらい時がたくさんありました。たけど、たくさん歩き回りコールを大きな声でしたり、かけ声をかけたりして乗りこえることができました。それにつらいことだけではなく、楽しいこともたくさんあったのでとても思い出に残るいい5日間でした。

そして、ゴールの所で家族のみんなが見守っていてくれたので笑顔で200kmを完歩することができました。

来年も参加して“300km完歩！”したいです。

参加者感想文

参加者 4班 名前 高橋 和奏

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

1日は津南小学校まで歩いた時は、これを毎日歩くのかと思うとさびしかったです。もう初日から足がいたからなので20km歩くのはさばかたです。

2日目はひまわり畠に行きましたことひまわりがどうもきれいでした。

3日目はマントハウケ津南に行った時は1日か夕方かです。

4日目いつも車で通って13道を歩いて自然がすごかったです。

5日目 最後と思ひながら歩きました。

考えた事は 人が自然があることです。

参加者感想文

参加者 4班 名前 恩田千穂

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

私は今年、100km徒步の旅は、2回目だから
のぼりはぐらくなかったけど、1日目は、はず
かしさもあって、ほちょうコールは、昨年の
100km徒步の方旅のほちょうコールよ
りもちいさか、たけど、ほかのはんとく、
ついでや、たとまから、ほちょうコールの声
が大きくなりました。最後のみんなの
「ほちょうコールでは、2人でいたから、自
分の番の時に声は大きかたけど、ほ
かの人かいしているときの「とーれ」と
「とーれ」の声が小さかたので、ゴーレなく
せんは、「それ」や「とーれ」をせんは、
といいました。私は今年で2回目で200km
完歩したので来年でて300km完歩レ
たいです。東小8人全員で300km完歩するぞ。

参加者感想文

参加者 4班 名前 島田 莜衣

■ 100km徒步の旅を通して感じた事、考えた事を自由に書いてみよう！

リーダーたちは、ちゃんとしないとダメなど、みんなで協力して歩くことが出来ました。私がよわぬをはくと、友人の「元気がなくなる」とも、下もろい声でねえコケレをやるとみんな元気な感じでいました。でも100kmあるのはちよ、とつがいれにいたりみんなでこえをいいあいやってみると、元気かどもあらうのに元気がもうらんました。それでみんなでたすけありやると、100kmたどりでできることかわいはした。こはんかともみんなかのこした人のをたすけあってたたりになりました。たくさんの人たちにもおうえんしてもらって、100kmあるけました。さすかけの人もおもい歌をもってきたり、みんなとさてもてきたり、おにぎりをもってきたりしてもらって、ちゅうははぼうにもなほしました。みんなにはいましあ、たりしました。たとえば、あともうすこしきゅうえいだから大きな声でいてかんばるうなごのことはをいいあいかんばれてきました。みんなでかんばれば、せうたいに100kmかんぱできることをしりました。そのことをしてまた100kmとはのたひにひたるとおもいました。

100kmとほのたひ
またでた——い!!

保護者感想文

保護者氏名 高橋 季代

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今年の春より、本人の体調が思わしくなく、本人も「今年はどうしよう?? おても全然歩けないかも…。」と自分の体調に自信を無くしていました。が…、申し込み最終日に「やっぱり出る!! 300km完歩を目指す！」と、私は今年も100km徒步の夏が始まるとうれしい気持ちと応援する気持ちでいっぱいになりました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

3回目の参加ですが、またまたバ配しはなしでした。そして…。
2日目の夕方 熱があると連絡が…!!
泣きながら「リタイアしたくない。でも体が…。」と、泣きじゃくる本人の姿に切なくなりました。
翌日の夕方からみんなのもとに戻れ、後は最後だから思いっきり楽しんでおいでと応援していました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

「300km完歩」このことを目標に今年参加しましたが、無念のリタイアに本人は想像以上の悔しさを感じ、ゴール直後からイライラ、モヤモヤ、めさめその気持ちが前に進めない時間を過ごしていました。そこで「歩けないた分はこれから歩いて自分たちで300km完歩しよう」家族で歩くことを決めました。しかし、歩く当日、澤野団長はじめ学生スタッフの方々が一緒に歩いてくださいました。本当に感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。

3年前の「100徒步であるよ」の息子の言葉からはじま、「100徒步の夏」。たくさんの経験とかけがえのない思い出をくださった澤野団長をはじめ、学生スタッフ、社会人スタッフの皆様にばかり感謝いたします。本当にありがとうございました。一生の宝物になる思い出を頂きました。

保護者感想文

保護者氏名 小林 尚子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

参加させたいという気持ちはありませんでしたが、いざ参加するとしたら今まで歩くといつても学校の行き帰りくらいで練習するにしても1日20kmを練習はできないので暑い中歩き切るやうに覚悟していました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

初日は35度以上という猛暑、3日目は雨。気温差もあり体調を崩してしまったと感じました。朝はなかなか起きられず朝食は少食の方でちゃんとみんなと一緒に起きて遅れずに出发。途中で朝食をちゃんと食べ王野に止まりながら歩いていたが、そして夜は暑くて寝れていらが、雨の日は涼しくて寒くはないが心配になります。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

普段口かずかず少なくて恵みの子ですが帰ってきた時は5時間の事を聞くとしゃべりと色々と教えてくれました。
今ではすっかり元の生活に戻っていますが何をも積むと手伝ってくれます。
100徒步に参加するのは本人は最初だったと思いつつもが完歩して帰ってきたら「楽しかった」と言いましたと早く出づけば良かったと言いました。
そして「中学生スタッフ（今後募集があるのです）として参加したいと言っています。
帰ってきて「もうイヤだ」と言ふんじですか、と思ってましたが色々な事を経験して精神力も手に入れいい経験をしていました。

スタッフの方は5日間ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 粟原美雪

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2年目ということもあり、1回配達はあまり(2回はせん)でしたが、
気温が暑い日から続く二日目は、気になりました。
今年は4年生の参加者の多い31人に対して、どうぞよろしくおかけで
あげられると、少しありうることと本人と話をしました。自分の変わ
ったところが同じ年生の仲間に比べてどう変わったことか
でわかるのか、成長していくのが何より楽しかった。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

出発の日は朝から暑かったので、体調悪くすこしごみに
歩けたら良いくと思っていました。3日目のとくや降りの日は
さすがに朝からいい配達でしたか…。
歩く事は1ヶ月位毎日歩くことのいい處ではありました
でしたか、自己管理が家では手は人に迷惑
をかけていたのかほ少し気付きました。毎日備大の
がんばっていようと私もがんばろうと思えた5日間でした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

おり日に見えこの変化は見られないたですか。
帰宅後は自分でどんなふうに生活をしていましたか。
子どもの会話をかえ増えました。おり話をしますか…。
樂かれたことかとかも伝わってきました。
来年は300kmは挑戦するとおもてます。

保護者感想文

保護者氏名 大渕 真由美

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

参加は2回目になりますので、昨年程に配せず
落ち着いていました。
主人があまりに楽勝ムードで少しあきれました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

2回目のコースは昨年にはない方が、たのんで山に雨で
さすがにリタイアするかとドキドキでした。
暑さもきびしくても汗ばんばく、くく山はすと
親もエアコンつけずに頑かけです。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

100徒步中にもぐずついたようですか。
帰、これらは減少傾向にあります。
早寝、早起きは、早寝はますます早起きはどうにも
以前と変わりなくなかなか起きません
1回目、2回目と本人はまだ楽しかったよう?
帰ると来年も出ると言っています
2度目、正直云々これまで以上、変化が
ある事を来年に期待します

保護者感想文

保護者氏名 小海さおり

■ 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

初参加なので、子供が100徒步に参加すると決めたものの、いろいろやはり不安でした。でも、事前説明を聞きに行った時、部屋に入るなりスタッフのお兄さん・お姉さんの元気、明るいのいいさつ、ハキハキとしたうけ答え、想像をはるかに超えたしっかりとした組織作りと…ここだったら安心して5日間子供を預けられると心底思いました。

■ 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

1日目、猛暑日のスタート！予報では1週間丸々〇：マークが続き、日射病とか、大丈夫だろうかと不安でいっぱいでした。日程表を見て、今頃〇にいる…とが、歩き終わったかな？とが気になっていました。頑張る息子を目の当たりにして、親として実行したことがあります。100徒步期間中、川西から諏訪湖まで頑掛け走りをしようと！毎朝4:30に起き、1時間の道のりです。諏訪様や子供達が今日も1日無事に歩くことをお祈りしていました。でも、100徒步期間中は、仕事中でも大変な時とか、子供も頑張っているから、私も頑張らないと！！と子供を励みにいつも以上に私も頑張れた5日間でした。

■ 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

100徒步ゴールした時の仲間とゴールテープを切るうれしそうな顔、また5日ぶりに会えた息子の日焼けして少し大人びて見えたあの表情は今でも忘れられません。100徒步スタートの日、車から自分の荷物を持って行かせる時、重たいとイヤイヤで持っていた子供が、軽々とあたり前のようになんか自分の荷物を持ってくる姿に大人になった…と感じました。また、帰宅してからも“ただいま”と元気良く入ってから、まず“自分の荷物を片付けたのにはビックリでした！こんなこと未だかつてなかったことですから、100徒步で“自分のことは自分でやる”ことが、身について帰ってきたんだと感心しました。でも、思えば“毎日来る服だって、私(母)が用意し、過保護の所があったのだと反省しました。お盆に泊まりで出掛ける際も、“これ1日目の服、夜、2日目の服…”と、自分で用意しているのを見てうれしくなりました。これからは過保護に逆戻りということはなく、自分のことは自分でやるためには、あたまえに、自立させて行きたいです。貴重な体験、本当にありがとうございました。”

保護者感想文

保護者氏名 和久井 洋子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

土が父年生になつたら 参加させようと前から思つて、全く
ハリ気ではない感じたのです。今年たゞけて良いから参加します！
とお願いしました。最初は、しぶしぶだった土も、たんぱくみに
なつて、出発の前日は、ワクワクして眠れないと感じました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

あまりハレにはしてませんでした。
きっと友達が出来て楽しくしてなかへと思ってました。
歩くのも 学校まで往復 6km弱の道のりと毎日歩いていたので
大丈夫と思いました。ヨーハルか
たたこ14日目は、すぐ近く(家)にたつたので 家に帰つてヨーハルか
と。また、私も近くゆえに見に行つてくださいました。
子供も家族もやうやくの日でした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

とつて、たくましく感じました。
完歩した、喜びと達成感！ ちょっとほんし氣に家族みんなに
みせて下さい。
あしたに「今年だけね」と言つたのに 着いてすぐには「また来年もよ！」
「太さくなつたら、スタッフにはよ」と言つて下さいました。
よつまると、学生スタッフさんか やつこ良く又、頼もしく見えた感じた
のよつまると。今度は、アレを持っていこうなどと来年の話をして下さい。
話し方も、大人っぽく生意気にひつて、やる事で自分から率先してすみので
ハレも体も成長したなつてと感じれた。
1泊して3日間は、緑のTシャツを洗つて毎日着ていました。(お気に入りです)
たぶん自分でひき自慢たつたのでしょうか。
十日町や川西、津南を車で通つて、「ここ歩いたよ！」とここで休んだ
ところ改えてくれました。本当に良い体験させて頂きました。

ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 野澤 陽子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

200kmへの挑戦でした。昨年の100徒步終了後、「絶対また出る！」と言つたのです。1年間、いつも夢をうながすのが、ついにやめて（ほげて）、「一度も「行かない」と言わずにうなれとくに出発して行きました。小学校生活の大成、卒業と言わずに歩く24歳、これまででないであります！
「桜のソング」の歌、話すところまでおち込んで来れば！

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

昨年は雨に降られながら走りました。3日目のどしゃ降りの不安と、西風で走りませんでした。コース図を持ち歩き、今頃どこで何で迷うのかなと思いつつ去年と一緒に走りました。今年はどうかに応援メールを送りました！と言つたところから走り出さずじまい。3日目を乗り越えればきっと大丈夫、もし電話、こまかく私の息子「パンサイ！」帰ってきてラーメンと一緒にバーグの約束だけは守る。あの3月は去年我慢しきれなかったのにやけに約束守るかは…？イヤイヤいきる。信じます。その日は

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

素晴らしい成長を遂げて帰ってきてました。自信に満ちた成長した自分を見つめうなづいていたいと思います。スマイルした顔つき。彼の人生で一番の笑顔。9日間程、朝4時30分に自然に起床。帰宅翌日、お腹が空いて、うめおにぎり、自分で作って食べました。片づけも完璧です。我が家子の成長を一番感じました。その翌日、買ってきたパンを食べました。パンの袋は床に落ちていました。その翌日、お土産で「お土産へ△△××」うさぎ、4時30分の寝そべりに話しかけてはいけない可かへん天童へです。いい子、いい子。100徒步の間だけでもしっかりと、きちんとやめたびであります。今回も「今回の100徒步で、いろんな事を学んできた」と日常的に見つかる見つけるにはこんなセリフを言わせた程、100徒步には価値があります。「リタイアメントと異つては」というお任せへの応援メールで「探せばから元気張りたま！」ごめんなね。学生スタッフとしてまた成長していく時に必ず出ます。笑顔の更新します。ありのとうございまーす！！

保護者感想文

保護者氏名 阿部純子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2回目の参加なので、昨年とは違い、ハマリな事、不審な事はありませんでした。
ただ、余り歩く練習をいたしませんでしたので、暑さもあり、体や心最後まで緩くやさしくが少しハマリな事がありました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

1日目、猛暑の中歩ききり、家に電話がこないで、
もうあと1日は大丈夫だろと思いまして。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

特にこれまで変わった事はありませんが、
2回目の参加で、余裕があったと言っていたので、
精神的、肉体的にたけんぱにならなかったと思、うれしく
思っています。
ターバン、リュックの中がきれいです。千着、エ着、タオルも綺麗
汚れた物をリュック袋に入れていたのでおどろきました。
ロードル、ジャージ等も立派な感じです。

無事にゴールさせていただきました。大変感謝しております。
ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 粕原 美雪

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2年目ということもあり、1回では慣らせていました。ぶつぶつから自分のことは、何でも自分でするため、大丈夫だろと思いました。前もって朝起きたことから歩くことで自分で決めて進めるのを見た「100km徒步をがんばろうとする気持ちも伝わってきたので、どう成長をするのか楽しみです。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

虫に弱く、蚊ももすぐに出来てしまう体质なので、そういうアレは1回でいましたが、生活の中の人は大丈夫だろと思いました。いつもとは違うことだけでも、自分で今までしてきたことをもう一度やり直す。5日間無事に歩けると思いました。とにかくやがりの3日目はマウニティパークの山歩きため少し1回はました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

時間管理の大切さが改ためて分かったと感じました。生活の中で時間の使い方を今まで以上に上手くするためだと感じます。親が老まるのも今日からは変わったんだと思いました。また、早くから、家庭で帰って来たのを見て成長を感じました。これ大見知りのところがあるのですが100km徒步の翌日の人や、スタッフの人たちとの話が夕方までずっとありました。この5日間で自分が出せられたのかな？と思いました。翌年は300km徒步ー！と出る意欲もありました。

保護者感想文

本木仁絃英
保護者氏名

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年100km完歩した後、来年はもう歩かないと言っていた
息子が案内を頂て今年は200km完歩するとまた目標を掲げてくれた
これが大変うれしかったです。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

4日前くらいに体調を崩し、元気はよくなかったです。彦根の病院で
点滴治療を受け送り出し、化粧をしていました。
連日の猛暑、突然の豪雨毎日お空とつながり、知らせかねるのは、
元気は正常と思わずからずござりました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ひと回り体が大きくなつて帰ってきました。
がんばって毎日たくさん食べて丁寧だったのかなあと
思い感謝の一言です。
「去年はもう歩かない」と終った後宣言したのですが、今年は
「来年は300km完歩だ！」と宣言して息子の成長を
うれしく思いました。

無事5日間(100km)共に歩ってくれた仲間感謝。
ずっと見守り支えて下さったスタッフに感謝です。

本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 南雲 美春

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

本人が「てたい」ということで申し込みましたが
100kmという距離がわからず状態たかう
てきるのかな?と心配でしたが、やりたいと思った事で
させたかったので、人の前で話すのが苦手なので
何が変わればきっかけになつてひとまわり成長
にほいといふ気持ちでいた。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

今まで見子と離れるのは（日しかなかったので
4月5日は長かったです。でもどんな風に変化して
くるかがすごく楽しみでした。
それと5日間という長さなので甘えがてて迷惑を
かけないかが心配でした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

封筒1枚「お、水が好きになれた！」
帰ったときは額つきがかわり少しリリックなた大半
に見えました。自分の事を1人で主張したんだなと感じました。
すぐに野球で発表する機会がありたのですが堂々と話し
声が大きくなりました。一番うれしくは「今だけの」
とても嬉しいです。TVゲストしながらの5日間、ほぼ川遊び
でした。自分の身を主と自分でした事、みんなと時間をあわせて
行動した事、全力で声をだした事、スタッフの方や学生スタッフ
の方々に支えてもらって、一人で協力して100km先を
走った事は一生の中でなかなかできない経験を
させて頂きました。この経験を今後に活かして
もらいたいです。ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 福島真弓

■ 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

年の離れた兄弟の末っ子。何でも誰かがやってくれる。そんな状況の中での参加でとても心配でした。

やればできるんだろうと思っていましたがやはり手を貸し口を出し、これで大丈夫だろうかと不安を抱えた出発でした。

同じ小学校からの参加者は居ませんでしたが、説明会で知っている子がいたのでそこは安心できました。

■ 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

参加前に何回か一緒に歩く練習をしていましたが、毎日天気予報、予定表とにらめっこ。1日目、就寝時間が過ぎて連絡がないのでほっとしていました。

2日目以降も何かにつけて心配ばかりでした。

■ 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

完歩した喜びに甘やかしてしまいほぼ参加前と同じ状況に。

ただ、参加前から練習でやっていた茶碗洗いは続けています。

やはり親もきちんと学び子供の成長を促すように対応しなければと反省しています。

来年の夏までにはできることを増やして、成長した姿をお見せできるように親子で取り組みたいです。

保護者感想文

澤野 朱美

保護者氏名

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

「昨年も歩いたから平気」と本人曰く思っていた様子。なまめかしく歩く練習をしていたが、丁度のリバーバル配付でいた。園長曰く言っていた、「オリンピックに先る前には必ず練習」は、もともとより歩く練習を本人にうなづいていたのである。なまめかしい…。しかしも今年の夏は昨年と違い暑くなり天候が悪かったとおもっていたので、今年先歩でさるの不安な気持ちでいた。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

暑い日が続いているので、とにかく毎日のコースを先歩で歩いていきたい。学生スタッフ・社会人スタッフ・同じ班の子達と一緒に歩くのが不安でいた。途中、1回熱中症っぽくなり、13回3回止めがあり、丁度その日以後、尚一層、毎日を先歩でいるのが配付でいた。僕の弟は、「少し泣けない」と言っていた。毎日泣いていたのに、やはり怖がるなんだと見受けました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

見下すには、あまり「こわい変わった」とすぐ思ふことはありませんが、以前に増して様なこと、はじめてのことに対するイヤレシジする気持ちが強くなっている気がします。また、「気をきかせて何のをする」ということを意識して行動する様になりました。何のとて「なぜきいてる？」と聞いてきます。その他には、「おべ向ひなれこと（勉強・お手伝いなど）をする時、以前は言いかてもなまめかしい気があがらなかつたのが、その後の間の今までの時間が短く、丁度の気がわかりました。

本人の中では、何か立ちの変化がある、この人もいません。成長していく、成長すると見うでの、今後もどんどん成長をし、どう変わっていくか見守りたいと見ています。

保護者感想文

保護者氏名 川林 夏子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2回目の参加でしたので、親も子も少しだけ
余裕がありました。ただし、昨年とコースが違った
ので「マウンテンパークまでしっかりと歩けるのかは？」
と。。。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

「しっかりと歩けているかは？」ちゃんと寝ていいかは？
とかではなく、暑さや雨の天候、事務手続きが気にはして
いました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

「特にこれが変わった！」というのはほんの少しが
達成感に満ちた顔つきは、ゴールした瞬間にすぐ
わかったし、最初の事が「あ～楽しかった～」でした
ので、本人にとって暑い中歩くのは本当につらいと思いま
すが、それ以上に樂しいことがたくさんあり、5日間だった
のだと思います。帰宅後も「つらかった？」は1回も
言っていないです。そこが成長したのかですね！

保護者感想文

保護者氏名 藤田由理

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

娘から「100km歩きたい。參加ね」と言われた時は「歩けないわけがないと無理。ダメ」と反対でしたが主人との話し合いで娘の強い気持ちを受け止め參加する事に決めました。参加すると決めながらは全力でサポートしてきました。自分もとても不安でいい方の母でした。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

娘の事で頭がいい、忙いの5日間でした。連日の暑さ、途中の大雨、あの子が一人で着替えてきては37、39度も下りターミナス付いていました。39度、心配で仕方ありませんでした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ゴールした時の娘の顔！出発の時とは別人でした。自信に満ちあふれてました。「帰ってきて100km徒步の話をたくさん聞かせてくれました」「自分の事は自分で決めるんだよ」「おひさまは家で寝ないと」という話を聞いてるといつも普段私が手を出してしまっていたのが反省させられ、次から帰ってきた今は1回りも2回りも大きく成長している娘に口を出さず見守っています。

娘は辛かったこと以上に楽しかったことは歩きついで自とキラキラ輝かせています。どう思われてくれたのは回りのサポートしてくれたスタッフの方々のおかげです。ありがとうございました。

お疲れ

保護者感想文

保護者氏名 上村 栄美

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

以前、足首を骨折し痛む時があり、今まで長距離を歩いた事が無かったので、100km徒步出来るのかと水深地区では好い人しか参加しないか、下での友達が出来るか心配しました。
あと、本人の長持ちや態度から少しでも変わること出来ることかないと期待していました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

毎日予定表を見、今頃ここにいるんだと思、していました。
暑い日が続いたり雨が降ったので、体(足)が大丈夫かないと友達が一人でも出来たらと心配していました。
整理整頓や行動が屋内の7~8時間に亘つていいのか?などと思、していました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ほぼ以前と変わらないです。
ひとつだけ大変だったと言いました。
2月のひまわり館に行く坂が辛かったと言いました。
その他は何も言いません。
今所、来年も100km徒步の旅に出ると私に言いました。
私には出来ませんが、茉菜は100km徒步してすごいと思いました。
ありがとうございました。
スタッフの人々へ感謝します。茉菜が展示徒步出来たのも皆さんのおかげです。

保護者感想文

保護者氏名 小海 智美

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今年、始めて参加させていただきましたが、説明会に行き、100kmを歩くことをという事が、いかにも大変かと聞かれ、私自身、毎日の生活に「大丈夫かな?」「やめさせようかな?」「体力があるかな?」と心配ばかりしていましたから、当日まで不安をやがて過ごしていました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

出発当日、猛暑となり、日程表、携帯電話をいつも身につけて、「今はどうか?」「熱中症は大丈夫か?」と心配になり、夜になると、電話やつづいた。無事に1日終えた。とホッとして、少し不安な気持ちが落ちついた3日目、サクラ(?)の子供からの「かきゅ、元気で集じょうな内容に、涙が止まらない。」「今日は不寧よりも、会いたくなつて、長い長い子供の事ばかり思つ5日間でした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

ゴールを切った瞬間、まだ歩けるようだ元気でした。しかし、2、3日たつと、肉体的、精神的揺れが出来始め、ホントに日々を過ごしていました。

お利、気持ちの面でも、変化はありませんか?「それほどでもない」「達成感」を体で感じた事ができた体験は、将来、自身のためによくかるかもしれません。

仲間と一緒にした5日間がとても楽しく「来年も出る」と言つます。この5日間、支えてくれたスタッフの皆様、友達に感謝です。ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 熊木 麻衣子

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今回が2回目の参加になりますが、今年の春に左足の骨折で、今まだ歩くのが大変ですが、それでも歩きたいと強く思っています。歩くのが大変でも、医師からも痛みが止まらない可能性もあると言われて、少し心配ですが、それでも歩きたいと強く思っています。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

1日、2日と猛暑が続き、暑い中を歩いているのか...
と少し心配していましたが、電話が鳴り、走り切ってしまった。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

親元を離れての数日間で琳にしましたのか、す手伝いをしては頼せずしてくれたり、はにょりと弟と一緒にいました。
今までは1人でマンガ本を読んだり、ゲームしたりしていましたが、弟は本を読んでアグリルと一緒に物を作ったり可愛いがっています。
私が勝手に推測ですが、集団生活の中で過ごし、今回小学生からは最高学年の人で、開拓の中でも自分よりも年下の子に優しく接するところを学んだのが感じます。
慣れ親しんだ友達ではなく、新しい年少のみ友達と一つのチームとなって過ごし、新たな新しい友達が出来ます。
新しい環境に身を置くことは新鮮ではありますし、ストレスもあります。しかし、経験として成長していくに思うが、率失せて100km徒步の歩き方をパートに参加していくことを思っています。

保護者感想文

保護者氏名 本間 久雄

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2回目の参加だったので、不安はなく迷路の頑張りがとても楽しめました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

2回目の参加で先の苦しさや辛さを知っているだけに、3日目までは心配でしたが、4日目以降はどんな顔で帰ってくるのか楽しみでした。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

旅の参加前に「今年は2回目の参加だから、下の子への気配りや挨拶をしっかりしてください」と話していました。
帰ってきたら「今年は挨拶が出来るようになつたね」と自分から話した事が、「あ、覚悟つたら」と思いました。
実際、近所の人自分から挨拶していたのを見て、とても嬉しかったです。

保護者感想文

保護者氏名 恩田勇一

■ 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

さめ2年目。今年は歩ることや、あたりまえのすうに準備が進んでいました。去年も暑がでけど、冬や以上に暑い日が続きどうぞ心配でした。
「去年、街灯の下から今年も大丈夫」と本人が思っているのが一番良かった。
あと、カバンの中身いつのまにか23.2kg。
来年は、自分が主体として準備をしよう。

■ 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

とても暑い日から始まり、途中は、ひどい雨の日もあり。
そんなに厳しい状況の中でも子供達の負担が一定してます
ようにスタッフの人たちが苦勞してろむけて感謝感謝です。
「丁寧で、歩けないせんの裏にある300人で力で
手伝っても感じとりません。何で歩いてくんでいい
だよ」と思っていました。

■ 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

家に帰り、今年はTVを見始めることはありませんでした
してか読書を始めました。久く普通の生活に戻りました。
旅の間は自分の身の回りのことは自分でも、2つでは
すが、その時のことが生き残る整理、整理ができます
すごいのです。
解説式でのハーフニング、「何で自分だけ」と少し悲しい気持ちになりますが、そのことを直接的に態度に出してしまわぬよう自分をコントロールしていかねばなりません。まだ未だ少しすきです。
でも、この体験が何年か先の行動に良影響となるよう努力しておきたいと思います。
スタッフ皆様、ありがとうございました。来年もお頼みします。

保護者感想文

保護者氏名 高橋百合香(和泉母)

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年の前日リタイアが頭をよぎり、毎日娘の体調が心配でした。こちらの不安を娘に気付かれまいようにしたつもりでしたが、たぶん気付かれていたと思います(笑) 何事にも積極性に欠け、自信を持てない娘に、どうしても100徒步に参加し、何かをつかんで欲しいと思い、申込みさせて頂きました。完歩出来たら必ず今後の人生に役に立つと思いましたので、どうしても参加させたく、スタートするまではドキドキが止まりませんでした。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

毎日予定表とお天気アプリの雨雲・気温のチェックでした。とても心配でしたが、「あとは信じるしかない」と思い、始めてからは少し気持ちも楽になりました。娘がゴールした時のことを考えたりしてこちらもこの状況を楽しもうと思いました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

どれだけの成長、感動でゴールするか期待大でしたが、意外に「普通」で笑了ました。「あれ？泣かないの？」、「ゴールしたよ？」感動しないの？(汗)と拍子抜けしましたが、これが「たくさん泣いたのかな」と思いました。ここに来るまでにこちらが想像もつかないくらいの苦しさとツラさがあったと思います。スタート前より明らかに顔つきも話し方も変わり、自分に自信を持った気がします。5日間がどれだけ刺激的であった日々であるのか分かりました。これからどんどん変化が現れてくるのではないかと楽しみになりました。何より、ゴール後、「スケート楽しかった！去年が悔しい！来年も出たい！」と笑顔で話してくれたことが嬉しくて仕方がない私でした。娘が大変お世話をしたり、本当に有難うございました。家族一同感謝致します。

保護者感想文

保護者氏名 島田悟

- 100km徒步の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

本番を樂しげに待つておられる方を見て、私達も期待と不安でドキドキしていました。一緒に準備したのですがどこか親切な部分があり、「5日間大丈夫かな？」毎日の身支度をしっかりしてあるかな？」と心配もありました。

- 100km徒步の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

いざ本番を迎えると、不思議と心配する気持ちが消えました。毎日スタッフの皆さんや、友達みんなで励まし合いながら、一生懸命歩いているんだどうなと想像しながら、無事に歩き切ってくれることを願っていました。

- 100km徒步の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

今と二年、目に見えて変わったという部分は正直わからません。（腹痛がおいかたようで、体重が増えて帰ってきましたが…（笑））ですが、100kmを歩き切った以外、本人の中でも自信に在るこことは間違ひありません。また、友達みんなが5日間も瘦食のみにするという普段できない経験がとても新鮮だったようで、ゴール12ヶ月に来自ら参加すると宣言しました。旅のテーマである「生きる力」が、確実に本人の中に芽生えましたようです。この芽を大切に育えていきたいと思います。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 胡 みどり (えびちゃん)

私にとって2回目の100徒步本番が終わりました。皆で一緒に100kmを完歩できて良かった、という達成感のような気持ちと、もっともっとできたことがあった、という悔しい気持ちが混じっています。とりあえず皆さんが無事に100徒步本番を終えることができたことにほっとしています。皆さん、ありがとうございました。

去年、私は初めて100徒步にスタッフとして参加し、その何かに全力で取り組む！という熱量と子どもたちやスタッフのキラキラした表情に多いに感動し、魅了されました。そして、私はその魅力をもっと多くの人に知ってほしくて昨年から仲間と一緒に学内学外で説明会を開き、そのおかげで今年は学生スタッフの仲間たちがこんなにたくさん集まってくれました。去年から一緒に頑張ってくれているメンバー、今年新たに仲間に加わってくれたメンバーの皆さんに感謝しています。今年はメンバーの色も濃く、スタッフの数も充実していて色々なことにスタッフを配置できたことから子どもたちに手厚いサポートができたと思っています。本当にありがとうございました。

私は今年団長補佐をさせていただきました。団長補佐の仕事って何だ！？とぐるぐる考えながら、結局今年の私の役目は各班の思いを聞き出してそれが叶うように尽力することかなと感じていました。でも、各自の願いや思いを引き出せても、それを全部みんな叶えることは不可能で、そこを上手に取捨選択してひとつにまとめるのが私の仕事だったのですが力及ばず、中途半端に終わってしまった物が多くとても悔しいです。私が今年の100徒步で1番学んだことは、仲間との連携・協力の大切さです。ありきたりなことなのですが、集団で何かの達成を目指すという過程にはとっても重要なことだと痛感しました。私は問題や悩みを自分の中にしまいこんでしまう性格で、他の人にお願いをするのがとーっても苦手で、そのせいでしなくてもいい辛い思いをしてしまうことが多々ありました。こんなにたくさんメンバーがいるのだから、誰か他のメンバーに気づいたことを共有して、どうしたらいいか相談することがもつと必要でした。自分ひとりで何とかしようとしても、上手くいくことなんて少ないのです。今年の私は力不足で、そのくせ失敗を恐れていて自分自身も甘い部分がたくさんありました。何かに挑んで成長するには、自分の進む道に対してしっかり予習をして、全力で走ってつまずいたり転んだりするたびに、あ、自分はここが足りなかつたのだな、と学ぶことが絶対必要です。私は何かにぶつかる度に、自分は成長中だ！どんとこい！と思うことにしました。これから先どんなに辛いことがあっても、仲間と一緒に歩みながら、強くしなやかにいつまでも挑戦をし続けたいと思います。こんなに大好きな仲間、素敵な事業に携われて私は幸せ者です。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 山田 知可子 (ちかっこりー)

4泊5日の100km徒步の旅が終わり、今、私は様々なことを思い出しています。本番の4泊5日はたくさんの出来事があり、思い出もたくさん出来ました。しかし、私の思い出はそれだけでなく、福岡会議に参加したこと、今年の100徒步に向けて学生スタッフ募集を行ったこと、研修会に参加したことなどたくさんあります。福岡会議では全国の仲間から多くの刺激をもらったり、100徒步の神髄を学んだりしました。100徒步があんなにも全国の至る所で行われていて、100徒步に思いをかけている人が多いことに驚きました。越後つまり100km徒步の旅は全国の中でもまだまだ小さなほうであるため、参加小学生、学生スタッフの増加が一つの目標とされていました。そのため、私たちは新たな学生スタッフを確保するために、100徒步の魅力をポスターに書いて学校に掲載したり、紹介する場を設けたり、知人に声を掛けたりしてきました。その甲斐もあってか、昨年よりも学生スタッフが増え、良いスタートダッシュが切れたと思います。人数が増えたことにより、より研修会に活気が溢れ、いろいろな考え方や意見を得る事が出来ました。どうすれば100徒步を多くの人に知ってもらえるか、2年目として何をすべきかなどいろいろなことを考えました。仲間とともに考え、話し合い行動したこの1年はきっと私の成長に繋がったと思います。成長の機会を与えて下さった皆さん、ありがとうございました。

そして、もちろん本番でも学んだことがあります。今年の100徒步では自分の駄目な部分がたくさん見えました。まずは自分の性格を変えることができなかつたことです。リーダーとして、子どもたちに限界を超えるためには鬼になる必要がありました。しかし、私はそれがなかなか出来ませんでした。もっと早くに鬼になって、歩調コールをどんどんどんどんしていたら、子どもたちの達成感や感動は大きかったのかなと反省しています。もし100徒步が「楽しい五日間」という思い出だけで終わってしまっていたら私の力不足です。すみません。100徒步は楽しいだけのものではなく、辛く苦しいことがあってのものだと思うからです。今年の100徒步では、性格を変える難しさや大切さを学びました。次に分かったことは、一つのことに集中すると周りに目がいかなくなることです。私は1班のことしか見ていませんでした、1班の子どもたちのことしか考えていませんでした。他の班がどんな状態なのか把握して声を掛けるという余裕がありませんでした。班は違うけれども同じ「100キロ完歩、限界への挑戦」を目標にしている仲間であれば、もっと相互に声を掛け合い励まし合っていくべきだったと思います。広い視野で物事を捉え、周りの環境を把握し、一步行動する重要性を学びました。

私は今年、リーダーをさせて頂いて良かったと思います！悩んだことも多かった分、得ることも多かったです。そして、何よりも子どもたちの心の変化や行動の変化を間近に見ることができて嬉しかったです。声の大きさ、時間に関する意識、声の掛け合い、後輩を引っ張る先輩の姿など、日を追うごとにたくさん見ることができ、子どもたちの成長ぶりに感動しました。

学生スタッフ感想文

学校名 松代高等学校 2年 学生スタッフ氏名 阿部 七海 (ななみん)

私が、100km徒步の旅に参加するのは今回で四回目です。最初の三回は、小学生の頃の参加でした。今年は、自分自身が学生スタッフということで、自分が小学生の頃にお世話をしてくれた学生スタッフのようになりたい。と思い参加をしました。三か月前からの研修で、私たちは本番のためにさまざまなことをしてきました。その期間で自分自身成長できたことがたくさんあります。まずは、人前で話すことが上手い下手関係なく「好き」になれたことです。自分のことを人に伝えることは恥ずかしいことだと思っていたのですが、みんなが自分に興味を持ってくれたり、一生懸命聞いてくれることが、すごく嬉しくて、楽しくて、もっと話したい。と思うことができました。これは、今までの自分とは違う100徒步で得た新しい自分です。実は、100徒步研修で嬉しかった事があります。それは、みんなが本気なことです。学校生活の中では、必ずやる気のない人がいます。私はそういう人が大嫌いです。でも、100徒步の中にそんな人はひとりもいません。あたりまえの事ですが、私はそんな「本気」の環境にいれることが、すごく嬉しくて、改めて100徒步っていいな、と感じられました。そんな中で私が、歩行班をやらせていただくことになった時、みんなと歩いて嬉しいと思うと同時に高校生の私に頼ってくれるのかな、という不安がありました。しかし、私が想像しているよりも子どもたちはパワフルで、遠慮して気を遣う必要は無いんだなと思い、自分からどんどん話しかけ、触れ合うようにしていきました。それもあってか子どもたちとたくさんコミュニケーションがとれて、とても楽しかったです。が、楽しいだけが100徒步ではありません。子どもたち一人ひとりの限界を超えることが私たちの役目です。そのことに関してはなかなか答えが出ず、たくさん学生スタッフで話し合いました。100徒步中も終わつた今でも、私たちのできることをすべて出し切れたのか、子どもたちのこれからのお手伝いがしっかりとできたのか、正直わかりません。でも、最後の班での振り返りで私の班の男の子がこう言ってくれました。「僕は、100徒步にて人生に自信がつきました。」その子は大きな声を出すのが苦手で少し引っ込み事案な子でした。その子がこんなことを最後に言ってくれた。小さいながらもこれが今年の私の100徒步での成果でした。私は100徒步が大大大好きです。当たり前の事に感謝し、まわりの方々に感謝し、これから訪れる試練や苦労に感謝し、100徒步で得た事すべてを糧に日々精進していきたいと思います。最高の夏の思い出をありがとうございました。

学生スタッフ感想文

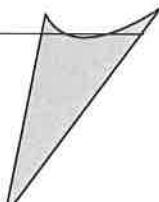
学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 浅野 友里奈（あさり）

私は今回初めて越後つまり100km徒步の旅に参加した。本番では歩行班のリーダーを努めさせてもらった。研修や本番を通して、100km徒步は自分が想像していたものより、とても重い事業だと思った。100km徒步は子どもたちを限界に挑ませなければならない。しかもそれを彼らと一から信頼関係を築いていく中で行う。研修中では“そうしなきゃ駄目だよね。それをやって当然だよね”なんて思っていたが、限界に挑戦させることは思っていたことより何倍も難しいことだと実感した。自分がまず限界に挑戦する意味・方法をよく熟知していなかったこともある。また子どもたちの手本となるはずが、気が緩んでしまうことが多々あり覚悟が足りていなかったこともあると思う。そのせいもあり、子どもたちに“この程度でいいんだ”と思わせてしまったことがとても悔しかった。

また、100km徒步の綱領や心得を子どもたちに伝えきれなかっただことも心残りである。心得などの意味を理解してもらひながら、限界を超えていくことの意味や大切さを分かってほしかったはずが、あまり指導できずに終わってしまった。指導できた時も、教えるタイミングや子どもに覚えてもらえるような説明など、難しいと思うポイントが沢山あった。しかし、改めて指導の大切さを理解することが出来た。

上記で反省することなど沢山述べてきたが、それと同じくらい良かったことや感謝すべきことも沢山あった。自分の班のサブリーダーや他の班のリーサブ、セーフティ班、生活給水班や記録班、そして社会人スタッフの方々。自分が困っている時に助けてくれたり、一緒に協力してくれて、本当に感謝の言葉しかない。また、子どもたちへの対応の仕方に困っている時、助言をしてくれる方もおり、自分が成長できる糧にもなった。また、私が見ていた班の子たちが日を追うごとにどんどん歩調コールが大きくなってしまい、班で立てた目標を達成しようとしている姿にとても感動した。雨が降ったり、とても暑くなったりとコンディションがあまり良くない時もあった。お腹が痛くなったりした時もあった。そんな中でも“絶対100km歩くんだ”“班の中の誰一人も欠けずに全員でゴールするんだ”という気持ちが伝わってきて、私が子どもたちから勇気をもらった。

100km徒步で私は多くの人と出会えた。個性豊かなスタッフに小学生。いろんな人と触れ合えて、沢山刺激を受け、沢山笑い、沢山後悔することがあった。もう100km徒步に出なくなる人もいると思うが、ここで築くことが出来た絆を忘れず、もっともっと自分を成長させていきたいと思う。最後に。100km徒步に参加して本当に良かったです！！来年も参加するぞー！！！



学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 渡橋 香月 (ずっちゃん)

第8回越後つまり100km徒步の旅の5日間を終えて、この行事に参加できて本当に良かったと思っています。今まで経験したことのない経験をし、そこから学べたことが多くありました。また、私は県外出身なのですが十日町という土地を歩き、新潟県の素晴らしいところの新たな発見をすることができました。

100徒步で学んだことはたくさんありますが主に3つあげます。1つ目は、1つ1つの行動に目的をもって行動することです。100徒步の目的であったり、歩調コールの目的だったりなど1つ1つの行動に目的が存在していることに気づき、意味・目的を考えて行動をしなければ、その行動の意味がなくなってしまうと学びました。また、団体が大きいほど1人1人が行動に責任を持たなければならないと感じました。

2つ目は、一日一生ということです。100km徒步の旅の心得にあるのですが、旅を終えてとても強く実感しています。あのメンバーであるコースである天候で歩けた日は1日しか存在しませんでした。そんな1日1日を全力で過ごせたかと振り返ってみるとまだまだだったのではないか、もっとできたのではないかと思っています。一日一生を実感している今日から、悔いのないように生きていきます。

3つ目は、1人では生きていとはいえないということです。100徒步にはたくさんの方々がかかわりあって成り立っているなど感じることができました。社会人スタッフの方々の先導後備・給水水掛け・トイレ荷物の運搬などなど。学生スタッフの仲間。地域の方々の応援。参加者の方々の参加、押し出してくださった保護者の方々。十日町という土地。あげればもっとあると思います。こんなにもたくさんの支えがあって、100徒步を無事終えられたことに感謝しかないです。ありがとうございました。そんな支えられて生きていることが当たり前だと思っていたが、当たり前ではなくありがたいのだと気づきました。また、その気持ちは伝えなければ伝わらない、一日一生その時その時に伝えようとも思いました。

5日間子どもたちと歩き生活し、子どもたちの元気、成長の可能性を感じることができ、自分の活力へとなりました。そして春から研修を受け、たくさん学び成長できだと思います。しかし、まだまだ自分の可能性を信じて今回得られたものを忘れるこなく成長発展につなげていきます。

学生スタッフ感想文

学校名 川西高等学校 2年 学生スタッフ氏名 小林 澄奈 (れーちゃん)

去年経験したことを少しでも今年に繋げられたら、自分を更にスキルアップさせたいという思いで今年も参加させていただきました。

今年はリーダーとして、3班のみんなと4泊5日を過ごしました。一番後ろから班を見ていて、1. 2日目はなかなか声も出ず下を見て歩いている子が多かったです。けど3日目から、具合が悪くても一生懸命歩いている子などを見て声をかけるようになっていました。班から遅れそうな子に気づくと後ろから押してあげたり、一緒に手をつないで歩いたりしていました。しだいに歩調コールの声が出るようになったり、なかなか声が出ない子に「まだ声出るよ！」など声掛けしてくれたり、とても嬉しかったです。ご飯の時に自分の嫌いな食べ物が出た時、嫌な顔をしながらもちゃんと全部食べ、「ちゃんと食べたよ！！」って自信をもって報告してくれる子もいました。これもまた、とても嬉しかったです。

ゴールした後のみんなの元気の良さ、パワフルさはやっぱり凄いです！温泉に入っている時、プールに入っている時、レクリエーションで遊んでいる時の表情は最高でした！もちろん、歩いている時のみんなの頑張っている表情も最高でした！みんなに元気を沢山、私はもらいました。沢山学ばせてもらうこともできました。ありがとうございました。

そして、今年は自分のスキルアップの為にも参加しました。私は、人の前で話すことが苦手です。授業中に当てられるのも嫌なくらいでした。でも、100徒步の研修に出て人前で話す機会が多くなって少しづつではあるけど人前で話すことが好きになってきました。授業中も当てられたら、堂々と答えられるようになりました。これは、100徒步研修中に人前で話す機会が多かったから克服できてきているんじゃないかなと思います。この研修で得たこと、本番で得たこと、小学生から得たこと、沢山あります。沢山得たことをここで終わらせずまた次に、そしてこれからに繋げていきたいですし、この経験をいろんな人に伝えてこの100km徒步の事を知ってる人が1人でも多くなるといいなと思っています。

最後に第8回越後つまり100km徒步の旅に参加して去年よりもたくさんいろいろな経験、地域の方々の温かさを感じることができました。ゴールをして思ったことは「やっぱ100徒步ダイスキだな～！！」です。そのくらい100徒步は私にとって大きな存在っていました。団長をはじめ社会人スタッフの皆様、子どもたちを送り出してくださった保護者の皆様、温かい声援をたくさん送ってくださった地域の皆様のおかげで無事ゴールできました。本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名 上越教育大学 1年 学生スタッフ氏名 松尾 友紀 (ゆきりん)

私は、今年の春、学生スタッフ募集のチラシと昨年の様子のビデオを見て、「今年の夏に何かこれをやったと胸を張れることがしたい、ほかの大学や年齢の違う人たちと一緒に何かをしたい」そんな思いで、越後つまり100km徒步の旅への参加を決めました。

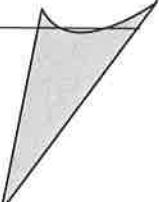
毎週日曜日に研修があると知ったときは、正直多いなと思いました。しかし、研修を重ねていくうちに、楽しみな気持ちも大きくなりましたが、まだ何もわかっていない自分がいて不安もたくさんありました。もっと研修をしたいと思うこともありました。それでも、研修を通して仲を深めたほかの学生スタッフと協力して助け合いながら、子どもたちにとってもスタッフにとっても良い5日間にしようと決意し当日に臨みました。

私は3班のサブリーダーとして、子どもたちと5日間生活を共にし一緒に歩き子どもたちの成長を近くで見守ることができました。当日は、その日その瞬間を自分が過ごすこと、目の前の子どもたちと向き合うことに必死でした。子どもたちに本気になってもらうように自分から率先して大声を出したり、心を鬼にして厳しく指導をしたりしました。自分のできることを自分なりに精いっぱいやったつもりです。

歩き終わって数日たった今、振り返ってみると、100km徒步の旅は、私にとって自分と向き合い自分の足りない部分を見つけられた5日間だったと思います。一生懸命になると周りが見えなくなってしまい、周りに頼るべきところで頼れなくなったり逆に頼りすぎたりしてしまうところ、一つのことに集中しすぎて広い視野で見られなくなってしまうところ、一つのことがうまくいかないと他の部分でもミスが増えてしまうところ、など、自分の弱点に気が付くことができました。また、ほかの学生スタッフのすごいところや見習いたいところもたくさん発見することができました。

そのような多くの気付きは、普段とは違う環境で非日常の体験をしたからこそ、手に入れられたものだと思います。普段何気なく過ごしている中では気が付けなかったことに多く気づかされた、そのことが私にとって1番の収穫です。

しかし、多くのことに気付けただけで終わってはいけません。私は、この5日間で得た気付きをもとに、自分の弱点を直し、ほかの学生スタッフの良いところを吸収できるよう、意識をして生活していくなければならないと思います。そのことに気付かてくれた、越後つまり100km徒步の旅とそれに関わる全ての人々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 長橋 和佳奈 (はっしー)

私は、大学の友達の紹介でこの100km歩行の旅を知りました。100km歩行の旅を知り、参加しようと思ったきっかけは最初の研修で聞いた「100km歩行の旅 紹介」と「限界への挑戦」でした。「私もこの100歩行に参加し自分の限界へ挑戦し、成長したい、変わりたい！」そんな思いがずっと自分の中にあり、歩行班にも立候補しました。内気でネガティブ、人前に立つのが苦手な私にとって歩行班に立候補したこと、100km歩行の旅に参加することには強い覚悟が必要であり、挑戦がありました。研修、本番では、「限界への挑戦」をしようと思い、たくさん考え、たくさん悩みました。けれども上手くいかないことのほうが多く、不安や申し訳ない気持ちでいっぱい、後悔することは多く残ってしまいました。しかし、そのような経験ができたからこそ、感じ得たこともあります。その中でも私は特に心に残っており、100km歩行の旅に参加する中で考え方方が変わったことがあります。それは、自分が一生懸命やってできなかったことがあってもそこで落ち込み、私にはできないと自分で限界を作るのではなく、まずはできない自分を認めて、乗り越えるための努力を考えることのほうが大切であるということです。5日間の本番中、どうしたら子どもたちが成長、限界へ挑戦できる環境が作れるか最後の最後まで試行錯誤を重ねました。けれども本当に自分はそのような環境が作れているか不安に思ったり、力不足な自分に対する苛立ちを感じたりし、落ち込むことがたくさんありました。その気持ちをゴールした時も感じていました。100kmを班の全員で完歩できたことに対しては達成感がありました。しかし、自分の目指していた環境が作れ、子どもたちの成長をサポートし、ゴールできたかと聞かれれば違うなと感じてしまい、これが1日1日考え、悩みながら得た結果なのかと自分に失望してしまったのが事実です。100km本番が終わった直後はそのことに落ち込んでいましたが今はそれでもよかったのかなと感じています。以前までの自分とは違い、できなかったことを認められ、そのことを前向きに学びとして今考えられていることが自分の中では成長だからです。

100km歩行の旅に参加し、自分の弱さ、未熟さを感じられたことはこれからも限界へ挑戦し続けようという意欲に、悩みながらも頑張れたことは自信に繋がりました。この夏の充実した経験は私の財産です。このような貴重な経験ができたのも研修から一緒に悩み支えてくれた学生スタッフのみんな、陰からたくさんサポートしてくださった社会人スタッフの皆さん、そして一緒に頑張ってくれた子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様、たくさんの人たちのおかげです。本当にありがとうございました。

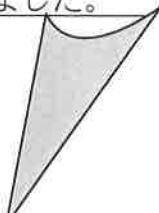
学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 上村 亮平 (かみりよ)

私がこの”越後つまり 100 km 徒歩の旅”に参加した最初の理由は、友達から誘われてなんとなく、というとても単純なものでした。初めての研修、人見知りしてばかりで弱気な自分は、うまく馴染めるだろうか、と不安な気持ちを抱えながら向かいました。そこには、そんなことを気にする必要もなく話しかけてくれる学生スタッフがいて…自分もこんなふうに変わりたい、という気持ちを持つようになりました。研修を重ねていく中で、一人ひとり違う価値観、考えを持ったみんなと話す中でたくさんの「！」を見ました。自分が子どもたちの成長の力になること、そのためには責任や覚悟が伴うこと、日に日に強く感じるようになっていきました。

そして本番。自分は4班のサブリーダーを務めました。女の子の班を持つということがとてもプレッシャーで、不安で不安でたまりませんでした。4班のみんなは、はじめ歩調コールでもぜんぜん声が出ていなくて、しかも自分は子どもたちとの信頼関係もうまく築けないまま…どうしたらいいんだろう、どうしたらいいんだろう…そんなふうに何度も自分に聞いかけたかわかりません。なんにも自分は変わってないんじゃないか、子どもたちの成長の力になっているのだろうか、いろんな思いが浮かんできて、泣いてばかりでした。そんなとき声をかけてくれたのは、やっぱり今までともにがんばってきた学生スタッフのみんなでした。励ましてくれたり、アドバイスをしてくれたり、みんなの一つひとつの言葉が、どれだけ自分の心の支えになってくれたことかわかりません。4班のリーダーであるはっしーにも頼りきりで、悩んでばかりだったけど、4班のみんなの大きな声での歩調コールを聞きたい、みんな笑顔で100 km 完歩したい、という気持ちは同じでした。最終日になっても自分は4班のみんなとの信頼関係は思うようにできあがってはいませんでした。それでもやはり自分はどうしてもみんなに声を出して欲しくて、とにかく声を出して4班を引っ張っていくと必死でした。その思いは4班のみんなにどれだけ伝わっていたのかは分からないけど、最後の大きな歩調コールの声はそれが伝わった結果だと信じたい。最後の4班みんながそろっての100 km 完歩は、ほんとうに”大きな一歩”であったと思っています。

100 徒歩の中で、自分は足りないところ、まだまだ変われるはずだというところがたくさん浮き彫りになりました。しかし、これだけ一つの目標に向かって悩みに悩んで、泣いて考えぬいた経験は、今までの人生にはないものでした。それ故この経験は絶対にこれから的人生に必ずいきてくると信じています。学生スタッフのみんな、澤野団長、社会人スタッフの皆さん、参加してくれた子どもたち、保護者の皆様、100 徒歩に携わったすべての皆さんに感謝しています。ありがとうございました。



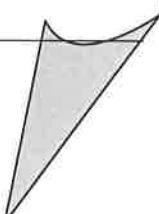
学生スタッフ感想文

学校名 上越教育大学 2年 学生スタッフ氏名 日下 啓雄 (ひろお)

「くやしい」100徒步本番の5日間が終わり、その5日間を振り返るとこの言葉ばかり出てきます。100徒步本番をむかえる前に思い描いていた100徒步が終わった後の子どもの理想像と自分の理想像と実際に100徒步が終わった後の子どもと自分の姿が全然一致していなくて、非常にくやしいです。昨年学生スタッフとして参加させていただき、今年2度目の参加となることでの、気のゆるみ、過信があったのかもしれません。そんな状態で100徒步の本番をむかえてしまい、このような結果を招いてしまったのかもしれません。そのせいで、団長補佐をはじめとする多くの学生スタッフや社会人スタッフ、子どもにまで迷惑をかけてしまったと思います。考えれば考えるほど、くやしい思いしか出ません。

今回の100徒步では、ほぼくやしい思いしかできませんでしたが、今後の自分の課題を見つけることができました。私は教師を目指している身として大きな課題をつけられたのではないかと思います。それは「参加者全員の動機づけの難しさ」です。30人、40人という多くの人数で活動する際に、その全員にやる気をださせ、積極的に活動に参加させることの難しさを痛感しました。大多数の子どもたちはこちらからの働きかけでやる気をだせることは可能かもしれません。だけれども、参加者全員をやる気にさせることは、こちら側に相当な能力がないと難しいと思います。特に100徒步のような肉体的、身体的につらさを伴うようなことではなおさらだと思います。私たちでも、マラソンをしましょうと言われたら、それに自分から積極的に参加できるとは思いません。しかし、指導者の働きかけによってその気持ちを動かすことはできると思います。中学や高校で私たち子どもを一つの方向に向かせ、やる気にさせることに非常にたけた先生と出会っているので確実に不可能ではないと思います。くやしいですが、今の自分では参加者の半数もその気にさせることはできませんでした。どういう働きかけをすればよかったですのかもわかりません。それくらい簡単に解決できるような課題ではないと思います。大学4年間のうちに少しでも、その能力の育成ができればと思います。

他にもたくさん思うところがあり、様々な改善点、課題が見つかりました。今年は悔しい思いをした100徒步ですが、やっぱり100徒步って最高だと改めて思いました。課題をくれた100徒步、子どもたちに感謝です。



学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年

学生スタッフ氏名 阿部茉友（あべま）

私は今年初めての 100 km 徒歩の旅に参加しました。参加しようと思ったのは一年生の時に大学で紹介されてみたビデオがきっかけです。そこには、子どもたちが熱い日差しの中大きな声を出しながら一生懸命に歩いている姿がありました。その映像を見て私も子どもたちの成長を見届けたい、一緒に熱い夏を過ごしたいと思い参加を希望しました。また、100 徒歩には本番までの約三か月間毎週研修があります。その中で自分自身がどう成長できるかも課題でした。残念ながら、一年生の時は予定が合わず参加できなかったのですが、今年は念願かなって参加することができました。

そんな初参加の今回私はセーフティーネット班という役職をいただきました。アメとムチでいえばムチという役割なのですが、どこまで厳しく接するべきなのかわからず悩みました。本番中も仲間とたくさん話し合い、実行、反省を繰り返しました。ときには団長からご指摘いただくこともありたくさん悩みましたが、正直最後までこれが正解だという答えは出せないまま 5 日間が終わってしまった気がします。ですが、暑さや足の痛みなどそれぞれが抱えている辛さを乗り越えながら子どもたちが一生懸命歩いている姿を見て私も元気をもらいました。自分たちがたくさん悩んだ分、子どもたちもだんだんと大きな声も出てくるようになり、仲間と協力しあいながら歩いていて、成長しているのだと思い感動しました。そして、途中体調が悪くなってしまった子もいましたが最終日に全員でゴールテープを切ることができたことが何よりもうれしかったです。100 徒歩に参加するきっかけとなった子どもたちの成長を見ることもできましたし、たくさん悩み考えた熱い 5 日間を過ごすことができとても充実した時間になりました。

今回の事業参加を通して自分自身まだまだだなと思うことはたくさんありましたし、反省しなければならないこともあります。そのことを改善し、これから的生活に生かすことが自分の課題です。また、失敗したときに支えてくれたのは仲間でした。みなさんには申し訳ないなと思いながらも感謝の気持ちでいっぱいです。自分一人ではほんとに何もできないと痛感しました。日々感謝の気持ちを持ちそれを言葉で伝えることを忘れず続けていきたいです。

最後に、この事業をとりまとめてくださった澤野団長、準備やサポートをしてくださった社会人スタッフの方々、この事業を理解していただき参加してくださった保護者の方々、ともに協力しながら支えてくださった学生スタッフの皆さん、一緒に歩いてくれた子どもたち、そして 100 徒歩の舞台である十日町に感謝の気持ちを込めて、貴重な経験をありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 福島 治樹（はっち）

私は100徒步に参加して私は大きく成長することができました、また自分の成長出来ていない点を深く知ることもできました。

私はセーフティーネット班として参加し子どもたちがゴールするのを見た時、初めて全ての出来事に対して感謝するという事がどのような意味なのかを知ることができたと今は思います。

私がこの「越後つまり100km徒步の旅」に高校生の学生スタッフとして参加させて頂くのは2度目でした、1度目は昨年開催した第7回に参加させて頂いた時です、昨年は班付きのサブリーダーとしてリーダーのサポートや子どもたちと歩くなどの役割を担わせて頂きました、その時はただただ自分の担当する班の子どもたちを見るだけで精一杯で我武者羅にがんばっていました。

今回私はセーフティーネット班の一員として参加しました、今年は比較的冷静に全体を見て行動するようになれたことが昨年との大きな違いだと考えられます。ですが昨年の100徒步とは違い今年の100徒步は子どもたちの表情に締まりと言うか緊張と言うものが少なかったと思われ、そこが大きな反省点なのは参加した学生スタッフ全員共通の考えだと思います、その反省点の原因の一つとして私達セーフティーネット班の役割の一つである子どもたちを追い込むことが欠けていたのではとセーフティーネット班では考えています、私個人としても今年は子どもたちにも自分にも甘い態度だったと思っています。実際歩いている時は自分が甘い態度をとっているなど思っていませんでした。

今回参加することで様々なことを学び多くの繋がりを得ました、私がこれから的人生を生きていく中でとても価値のあるものだと思います。

高校を卒業し進学したとしてもどのような形でも100徒步に関わりたいと思っています、それはこの100徒步という青少年育成事業を通して全てのことに感謝したいからです。

学生スタッフ感想文

学校名 堀之内高等学校 2年 学生スタッフ氏名 宮田 あすか (みやっち)

今回の第8回越後つまり100km徒步の旅には、2度目の学生スタッフとしての参加をさせていただきました。今回の100徒步は、多くの反省や学びがありました。

まずは5月後半から始まった学生スタッフ研修。前回よりも多くのスタッフがいることにとても驚きましたし、うれしく感じました。研修の中では、本番であるくコースの確認はもちろん、どの様にしたら小学生の皆さんにより良い体験をしてもらえるのか、健康の管理はどんなことに気をつけたらいいのか、また、私たちのこれから的生活や100徒步にも生かせるようなセミナーをしていただきました。本番に向かって歩行班、記録班、生活班と班ごとの話し合いもしていきました。私は今回自らの希望で、セーフティー班に配属させていただきました。昨年は記録係をさせていただき、みんなの歩いている姿を見て来年は一緒に歩きたい、と思いましたし、班の枠を超えて多くの子どもたちとかかわりたいと思ったからです。ですがセーフティー班は飴と鞭で言えば鞭のほう。遅れた子どもたちを隊列の中に戻したり、班付きのスタッフの目の届かない隊列の真ん中の子どもたちにまで目を配ったりするのが仕事です。自分で一杯になっているようではダメです。

本番では、子どもたちと実際に歩いてみないと分らないことが多くありました。足が痛いという子に、のどが痛いという子にどの様な声掛けを着ていくのが効果的なのか、セーフティー班は鞭だといわれているが信頼関係も何も築けていない中でそんなことをして逆効果なのではないか、夜の学生スタッフミーティングではその日思ったことや考えたことを話し合いました。その場で気付けたことは本当にたくさんあります。たくさんの話し合いをして迎えた最終日、小学生のみんなは大きな声を出してくれましたが、私の中には少しもやもやしたものが残っていました。最初にも書いたように、今回の100徒步では多くの反省がありました。もっと早く気付けたらと思うものも多くあります、これを必ず次の100徒步やこれから私の自身に生かしていくと思います。

私は小学校の頃にも2度100徒步に参加しているのですが、その時の学生スタッフが輝いて、楽しそうに見えて、自分もこうなりたいと思い参加をしています。子どもたちにもそう思ってもらえるようなスタッフになりたいです。

最後になりますが、この第8回越後つまり100km徒步の旅に参加してくれた子どもたち、保護者の皆様、スタッフの皆様、関わった皆様に感謝します。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 2年 学生スタッフ氏名 長澤 瑞奈 (ずーな)

私は今回、第8回越後つまり100km徒步の旅に2年目として参加した。私が今年100徒步の参加を決めたのは、去年の100徒步が印象的でまたやりたいという思いが強かったのと、今年は自分たちが引っ張っていかなければという使命感からだった。

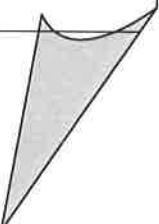
今年は学生スタッフも今までにないほどたくさん集まり、毎回の研修を重ねていく中で、私は記録という役割をいただいた。最初は正直「なぜ団長は私を記録班にしたんだろう」とか「子どもたちとあんまり関われないんじゃないかな」とか「写真のことは分からぬし、私なんかが記録班なんて務まらないよ」と思っていた。しかし、たくさんの研修と本番五日間を終えた今、私は心から今年記録班で良かったと思う。今年の夏も100徒步でたくさん学ばせていただいた。その中で私の主な収穫は2つある。

1つは、子どもたちとの関わり方や距離感が分かったことだ。去年は初めての参加でリーダーということもあり、しっかりしなきゃという思いからどこか子どもたちに対してかっこつけていた部分があった。しかし今年は子どもたちに対しても学生スタッフに対しても背伸びをしないで自分らしく接することができたと思うし、ありのままの自分を見せた方が子どもたちからも遠慮せずに接してもらえるということを学んだ。しかし、その分今度は子どもたちの成長のためにメリハリをつけてよい距離感を保つことが大切だと学んだ。ただ仲良く100kmを歩くだけじゃ子どもたちの成長にはつながらないということを再認識できた。

2つ目は、裏方の人の支えがあって100徒步が成り立っているということだ。今年は記録として社会人スタッフや裏方の学生スタッフを含め、全体的にみんなと接することが多かった。隊列を支えるために先回りをして水かけの準備をしたり、休憩所の設営をしたり、撮影ポイントに行ったりと様々なところでの動きを見てきた。社会人スタッフや一緒に歩かない学生スタッフの努力があってみんなで100徒步を作っているんだなと感じた。

反省点としては、自分は結構周りの人に頼って任せにしている部分があるなと感じた。他の記録班の人や社会人スタッフに甘えていた部分が大きかった。もう少し全体を見て動けていたら良かったと思った。

今回の100徒步を通して、私はやっぱり100徒步っていいな、好きだな、と素直に感じたし、記録班を通して写真を撮るのも想像以上に楽しくて、頑張っていい写真が撮れたり、それがDVDに使われると嬉しいと感じた。また子どもたちの五日間の成長を見ているからこそ、親のような気持ちになってDVDや歌のプレゼントで感動することができた。



学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 3年 学生スタッフ氏名 笠原 萌菜美 (mona)

今年の100徒步もついに終わりを迎える、私の長い戦いも一つ終わりを迎えました。去年、二日間しか出られず、今年こそは!と臨んだ100徒步。5日間しっかり参加することができたのは、家族、後輩、先輩、友達、団長をはじめとする社会人スタッフの方々のおかげだと思っています。まず初めに感謝の気持ちを言わせてください。ありがとうございます。

今年の100徒步は去年よりもつらいものでした。3年生となり日々多くの課題をこなし、同学年が誰もいない、先輩も誰もいないなかでの100徒步は想像以上に辛いものでした。そんな私をいつも支えてくれていた同級生。相談にのってくれたり、励ましてくれたり。100徒步を通じて改めてつながりを感じました。

今回の100徒步は記録係を自ら立候補して臨みました。理由としては、9月から実習に行くため、みんなの笑顔を活力にしたいと思ったからです。立候補した私が、普段写真を撮るのは携帯でカメラやビデオにはあまり触ったことがありませんでした。そんな私に研修を通じて使い方や取り方を教えてくださったFuneさんやきらけんさん、記録班の皆さんに感謝です。

100徒步本番の5日間はとても勉強になった5日間でした。最初は探り探りの記録でしたが、後半はこの写真が撮りたいと自分でイメージしながら撮ることが出来ました。しかし、まだまだ未熟。記録係をやって思ったのは、十日町を、コースをしっかり知った上で記録をとる必要があることです。私は十日町出身ではありません。なのでどのような風景があるのか、コース外でどこから撮ることができるのかなどほとんど知りませんでした。また、一回の試歩ではどの角度からの方がいいのか、どこから撮るのが良いのかを把握することが出来ませんでした。コースをしっかり把握するだけでなく、自分で何回も足を運ぶ必要があったと思います。来年はしっかり生かしていきたいと思います。

5日間100徒步に参加して沢山元気をもらいました。みんなの笑顔や頑張っている姿をビデオや写真に自らの力で残すことが出来て嬉しかったです。また、みんなで悩んだ分沢山の事を学びました。なりより、この5日間でたくさんの人々に感謝しなければいけないことに気づかされました。とても多くのことを得ることが出来た100徒步になりました。

Thank you for your everything.

学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 市川 慎吾 (イッキー)

今回参加して、第8回越後つまり100km徒步の旅はこれまでの生活の中においての自分の有り様を見直すきっかけとなりました。

4日目のことでした。合流した熟練撮影班スタッフの指示によりカメラを回収することになったその時、私は自分を否定されたように感じました。それまで他人のことを考えることができず、社会人スタッフのアドバイスによりやっと意思疎通し合えるようになり自分もまた役割を認識しうまく回すことができるようになりましたと思っていました。組織の中で、また映像をつくる素材としてのことを考えればその処置は当然、的確なことでした。しかし、それでも私にはそれに耐えることができませんでした。

私は自尊心の中で生きてきました。周りは不自由のない環境。そんな中で甘やかされ、ただ正しさだけを学び、それを叶えるための術を実行する厳しさを知らずに育つてきました。小さい頃から長けたものを持っていた私はそれをかさに他人を見下し、ただ正しさだけを示してきました。結果、その時これまでつくり上げてきた自分の立場、有り様を否定されたように感じたのです。それをプライドが許すことができず、それ以降まじめに動くことができなくなりました。

そんな時、ある子が声を掛けてくれました。「張り詰めている感じだけどだいじょうぶ?」それを聞き、なんて自分は情けないのだろうかと気付くことができました。自己主張が激しい上に人と関わることを避け、伝える術の乏しかった私は自分の感情を剥き出しにし、傍から見れば一目瞭然だったでしょう。これ程に見苦しくこの場にいる必要のない存在はあるとは思えません。子どもたちが力を振り絞る中、私情で仕事を疎かにすることがどれだけ愚かなことか、それをやっと理解することができました。

その後、私は心を入れ替えゴールに向け意欲的に挑めるように自分も子どもたちのように力を振ろうと思い、最後まで自分のできる限りでやり遂げることができました。

十七年間生きてきてやっと自分の根本の在り方を考える機会ができ、もう一度学生スタッフとしてこの越後つまり100km徒步の旅に参加することができ本当に良かったと思っています。これから多くの困難が待ち受けていると思いますが、それでも強く、真の意味で正しくあり続けたいです。

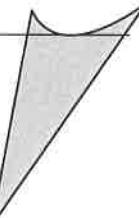
学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 丸山 徹生 (てっちゃん)

私がこの越後つまり 100 km 徒歩の旅に参加したのは今回を含めて 4 回目になりました。1 回目は小学校 5 年生の時でちょうど第 1 回の 100 徒歩でした。2 回目は 6 年生のときで第 2 回の 100 徒歩でした。そして 3 回目は去年の第 7 回の 100 徒歩に参加者ではなく学生スタッフとして参加しました。そして今年の第 8 回の 100 徒歩に再び学生スタッフとして参加できました。ですが今年で高校 3 年生ということもあり、運悪く勉強合宿と重なってしまい子どもたちといっしょに歩けたのは最終日の 5 日目のみでした。ですが勉強合宿に行っていた私ですが、ずっと 100 徒歩が気になってしまふがなかったです。そして勉強合宿がおわり 4 日目の夜から合流してみると子どもも学生スタッフも声が枯れています。肌が真っ黒に日焼けしていてびっくりしていました。これをみて明日の 5 日目は俺も頑張らなきゃと、おもいました。

さて私は 2 年連続で記録班になりました。私はカメラが好きで写真や動画を撮ったりすることが大好きです。今になって改めてなぜカメラが好きになったんだろうと考えたところ 100 徒歩が発端なのかもしれないと思きました。参加者として参加した第 1 回第 2 回の 100 徒歩の時、写真と動画を撮るカメラマンがいて、撮っていた姿にかっこいいとおもいました。また終了後に配られた写真や DVD を見て驚き、感動しました。そしていつか自分もこんなことをやってみたい!と思うようになりました。そのときにちょうど父がキャノン一眼レフカメラを買ってきて私が勝手にいじっていくうちにだんだんやり方がわかつてきて、いい写真も何枚か撮れるようになっていました。そして高校生になり学生スタッフとして参加して記録班としてがんばりました。とてもなく重たいカメラをもって子どもたちと一緒に歩き、時には先回りのために走ったりすることもありました。それはとても過酷なものでの時のカメラマンの人はすごかったんだなと身を持って実感しました。今、私のところの中にはプロのカメラマンになってみたいと思う気持ちがふつぶつとわいてきています。こうしていまこののような思いになったのも 100 徒歩のおかげだとおもっています。100 徒歩にはすごく感謝しています。

そのほかにも 100 徒歩にはいろいろ感謝しています。それは十日町のいいところをいっぱい教えてくれたことです。実は私の生まれは長岡でして、ちょうど小学校 5 年生の時には十日町に引っ越ししてきました。そして 100 徒歩に参加してみてきつかったものの十日町の良さに気が付きました。また第 1 回の 3 日目の松之山に降りていく道でちょうど同じ時期に開催されていたツールド妻有のロードバイク集団が通過しての列から見ていていつか参加してみたいなあと思っていました。そして時は流れロードバイクが趣味になり今年の「ツールド妻有」に参加することとなりました。なにかのご縁なのでしょうか。今の自分は 100 徒歩が作っていると言っては過言ではない気がしてきました。なのでこれからも何らかの形で 100 徒歩に協力していきたいと思っています。



学生スタッフ感想文

学校名 新潟県立看護大学 1年 学生スタッフ氏名 仁多見 佳希 (タミ)

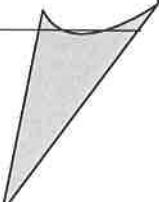
私は自分が嫌いです。自分の性格を変えることができたら一番いいですが、それは困難です。しかし、自分を好きにはなりたいです。そのための第一歩として、大学進学を期に自分に自信をつけたいと思いました。そこで100歩に参加しようと思いました。それは、乗り越えることが難しそうな課題を学校生活と両立させることができたら自信がつくと思ったからです。そのようにして私の上半期の目標は、「大学と100歩を精いっぱい頑張る」になりました。

そんな気持ちで参加した研修会では、まず事業の理念を教えていただきました。私は、子どもの成長のサポートを通してスタッフ自身の成長も望める、という方針に魅力を感じました。また他の学生スタッフは皆積極的に意見を発信する人ばかりで、良い刺激を受けました。

私はそのような恵まれた環境の中で他のスタッフと共に積極的に話し合いに参加しました。研修会を欠席してしまうことも多くありましたが、他のスタッフに情報を共有してもらったり、質問に応じてもらったりと沢山フォローしていただきました。ありがとうございました。

そして迎えた本番では、私は生活・給水班として活動することになりました。仕事は社会人スタッフの方々に教わりながら覚えていきました。初日はあまり役に立てませんでしたが、日に日にできる仕事が増えていくのが嬉しかったです。しかし同時に、子どもたちや歩いているスタッフに対して申し訳ないと思うようになっていきました。それは、歩いている仲間たちと自分とを比べて、自分は限界に挑戦できていないことに気づいたからです。そうなったのは多分、私が「子どもの成長のサポートをする」という大前提を忘れ、淡々と仕事をしていたからだと思います。これにはもっと早く気づきたかったです。悔しいです。でもそのように私が悩んでいるとき、生活・給水班を始めとした仲間が励ましてくれました。本当にありがとうございます。そのときは共に頑張る仲間がいることのありがたさがわかりました。また裏方の皆でのお揃いのリストバンドにも励されました。ありがとうございました。

100歩を含めた私の上半期の目標が達成できたかどうかはまだ分かりません。ただ、個人的な目標達成のために挑戦する機会をいただけたこと、共に限界に挑戦できしたこと、すべてに感謝しています。ありがとうございました。また、反省点を来年度きちんと生かしたいです。お疲れさまでした。



学生スタッフ感想文

学校名 上越教育大学 2年 学生スタッフ氏名 渡辺 春佳 (はるぽん)

私が100徒步に参加したのは、友人から100徒步についての話を聞いてただ単にすごく感動したからです。子どもと5日間をかけて100kmを歩き切ることに私も立ちあいたいと思いましたし、自分も何かをやり遂げたいと思って参加をしました。研修に参加し始めると、自分が思っていた研修とは違うことに驚かされました。実際にコースを試歩するだけだと思っていたが違いました。もっと大事なことを教えてもらいました。まず一番印象に残っていることが学生の積極的な姿勢です。グループで話し合う時は、お互いに何でも言い合っていたり、机を準備するときも率先して動く姿を見たとき、本当にただすごいなと思ったらし、これが私に足りないことだと思いました。研修に参加するたびみんなの100徒步にかける思いや、非日常的な経験ができる研修内容に圧倒され続けました。ずっとみんなに追いつこうと思っていました。そう思っているうちにすぐ本番がやってきました。私がもらった役職は、生活・給水班でした。子どもたちと一緒に歩くのではなくて、コースを先回りして休憩所の準備やレクリエーションの準備、ごはんを配布するときの挨拶の指導など、幅広くやらせていただきました。仕事の名前だけをみれば、裏方の仕事というイメージでただ与えられた仕事のみをこなすのかなと思いきや、そう簡単なものではなかったです。仕事だけをこなすのは簡単です。しかし、生活・給水班としてどう子どもたちと接していくかの位置付けや子どもたちにどんなことをしてあげれるのかすごく考えた5日間でした。100徒步のみんなの目標は、子どもたちに感動を味わってもらうことです。恥ずかしながら、その目標を達成するために生活・給水班としてどう関わるか本番を通して分かっていました。初日から気づいて行動すれば一番よかったですですが、遅くなってしまい申し訳ありませんでした。しかし、頑張って歩いている皆さんのサポートは生活・給水班みんなで一生懸命させてもらったつもりです。そう感じたのは、みんなからの「ありがとう」です。水かけをするとき、ごはんを配給するとき、みんなからの「ありがとう」が日に日に染みてきて、それが私の活力になりました。そう考えると、私ももっとみんなに力を与えることができたのではないかと思います。学生は4つの班に分かれていましたが100徒步としては皆同じチームだし、目指すところは一緒です。誰かがその仕事をやらなければいけないということは決まっていません。みんなが同じ目標に向かっていれば、誰でも気づいたらその仕事をするという意識が私には足りなかったです。反省点はたくさんありました。しかし、反省から学ぶこともたくさん、考えさせられることもあります。しっかりもう一度考えたいです。100徒步が終わってこどもたちは何を感じ、何を考えたのかはわかりませんが、私たちが何を子どもたちに感じてほしいのか、学生一人一人考えて行動していた場面をたくさん見ることができたし、言葉からも感じることができました。私も100徒步で得たことを忘れずにしたいです。みなさん、ありがとうございます。

学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 水上 晴葵 (はる)

私はこの事業に参加することが、小学生の成長を間近に感じる中で自分も成長でき、人生においての1つの財産になればいいと思っていました。ですが実際本番になると、自分の優柔不断で行動力のない性格から言われてしか行動できなかったり、3日目に歩く機会を得たにも関わらず、体調を崩し、歩くことができなくなり、なんの役にも立てず、ただただ迷惑をかけ、小学生は何日も歩いているのに自分は1日も歩くことができないことに無力さを感じ、参加したこと自体が間違いだったのではないかと疑い、何もできない自分が悔しくて悔しくて仕方がありませんでした。そんな時、学生スタッフの中の2人が私を励ましてくれました。こんなに溜め込んでたんだね、辛かったね、私達がいるから大丈夫だよと言って4日目の夜遅くなのに私の話を聞いてくれました。周りの支えのおかげで5日目を迎えることができた私は、一層周りを見るに集中して仕事をする事ができたと思っています。5日間1つの目標を達成するために寝食を共にするということはこのような支えが1日1日を生きるのに重要であると感じました。学生スタッフや社会人スタッフの方々には本当に感謝しかないです。その為、私はこの5日間で多くの人から多くのことを学んだことからこの100徒步は100点満点ではないかもしれないけれど、成功だと捉えていました。しかし、100徒步を終えてのみなさんの感想を聞くと、悔しいという意見が多かったと思います。理想には届かなかったかもしれないけれど、長いようで短い4泊5日の旅で子どもたちが何かを感じ取り、成長したことは班付きの人間でないながらも感じ取っています。例えば、最初は女の子だからと恥ずかしがって声を出さなかった子が最後には声が出るようになったことです。これは、しようと思えばできるじゃないか、と思われる方も多いと思いますが、その子の中で1つのプライドを捨てるということはとても難しく、5日間の中でできたことは、本当に素晴らしい成長の1つと言えます。このように、私が18年生きていてできなかったことを子どもたちは何か見つけて自分の人生の糧になるものを得ているのかもしれません。私は去年参加していないので以前のことはわからないけれど、自分の個人的な反省も含め、次への課題が見つかった第8回になったのではないかと感じているところです。

学生スタッフ感想文

学校名 十日町高等学校 3年 学生スタッフ氏名 村山 凜太郎（りん）

今回、私は100km徒步の旅に学生スタッフとして二回めの参加となりました。高校三年ということで受験勉強が重なりスタッフの研修に参加できないことが多くあり、本番では団長、学生スタッフ、社会人スタッフの方々に助けられてばかりいました。そして私は前回、歩く側のスタッフとして参加していましたが今回は主に100km徒步の旅中の休憩場所の設営や水の管理をする生活・給水班として参加しました。歩くことができない裏方役の仕事でした。私はその中で出来ることは何だろうと考えて行動したつもりでしたが未熟なところが多く、何も出来ないことが悔しく後悔することしかできませんでした。そしてあっという間に5日間が終わり正直今でも後悔していてどうすれば良かったのか反省することがあります。ですが私はその中で今後、私が直していかないとならない課題がはっきりと見つめる事が出来ました。そしてその課題を一つ一つ解決していくうと思います。

こんな良い経験ができる100km徒步の旅に私が小学校の時に参加者側として参加し、その頃の学生スタッフに会っていなければ決して知ることはできなかったと思っています。私は今年が越後つまり100km徒步の旅に学生スタッフとして参加する最後の年になると思います。ですが多くの参加した小学生の皆様に、高校生になって学生スタッフに参加して欲しいと思っています。私が経験したものと一緒に5日間過ごした小学生の皆様にも見て、感じて欲しいと思っています。そしてまた社会人スタッフとして戻ってきた時に会えたらなあと思っています。また私は順調に行けば越後つまりとは違う場所の100km徒步に参加して見ようと思っています。そこでまたいろいろな経験をさせてもらおうと思っています。

小学校の頃から参加させてもらい多くの感動や経験をさせてもらった越後つまり100km徒步の旅には感謝しきれないほど感謝しています。そしてそこでいろいろなことを教えてもらった団長を含めた多くの社会人の皆様に、私の我儘な性格に優しく接して、耳を傾けてくださった学生スタッフの皆様にもとても感謝しきれません。本当にありがとうございます。

学生スタッフ感想文

学校名 信州医療福祉専門学校 2年 学生スタッフ氏名 村松 みづき (みっきー)

2日間だけでしたが越後つまり100km徒步の旅に参加させて頂きました。私は子どもと関わることはあまりなく、どのように接していいのかわかりませんでした。2日間だけの間で子どもたちは私にかかわってくれるのか不安で仕方なかったです。子どもは私たちをしっかり見ていています。子どもから関わってくれるのを待っているのではなく、自分から話しかけ関わっていくことが大事だと感じました。笑顔は、皆さんを元気してくれる表情だと思っています。笑顔で接することで、子どもたちも寄り添って来て信頼関係が築ける仲になると思いました。綱領にもある積極的な姿勢もその1つに入るのではないかと思いました。来年からは社会人となります。また、私はいろいろなボランティアに参加していますが、この事業はボランティアとは違うと研修会の時に言われました。ボランティアの精神で行うと思っていたこの事業は、スタッフと言う立場で行う事がわかりました。子どもたちを5日間預かる事と命を預かっている事を忘れず、100km徒步の旅に取り組むことを学びました。

レクリエーションも子どもたちが楽しめるようなレクリエーションがありました。私が、知らなかったレクリエーションもありとても参考になりました。普通の会話をするよりも子どもたちは、遊んでいた方が楽しいと思います。レクリエーションは、歩き疲れた事を忘れる効果や他校の子どもたちと仲を深められる事が出来ると思います。また、子どもたちの笑顔が引き出せる事が出来るなと思いました。私は、介護の勉強をしています。子どもと触れ合うことはあまりありませんが、この事業に参加させてもらいいい経験となりました。この経験を他のボランティアでも活かせていいかと思います。

最後に、携わって下さった皆様や地域の皆様に感謝致します。2日間ありがとうございました。

■ 2016.8.13 妻有新聞

汗だくで歩く

越後つまり100キロ徒步の旅

山笠姿の子どもたちが

後つまり100キロ徒步の旅（澤野崇司長）は7月11日に実施。35度を超える猛暑が続くなかったが、山笠姿の子どもたち22人が妻有路を走破。宿泊は学校で行なうなど、4泊5日間の過酷な旅で生きる力とは学ぶ。3年連続参加の高橋昂くん（西小6）は「学校に泊まるとか普段できない体験が楽しいんです。毎回メンバーも違つし、新しい友だちができるのも嬉しい」と曰く。8年目を迎えた。キナーレを発見にもつなげてもらおうと、4泊5日で共同生活した同旅。それを支える

のが学生ボランティア。

今回は22人が参加。かつての参加者が成長し、ボランティアスタッフとなるケースも増えている。

内高2）。「小さい頃お世話になったのと、もう10日町小5・6年時に参加、いまはボラスタッフの宮田あすかさん（堀之内高2）は「小さい頃お世話になったのと、もう10日町小5・6年時に参

た。猛暑のなか妻有地域を山

歩く子どもたちが、

魅力です」と子どもたちと共に大声を出していた。



■ 2016.8.24 新潟日報

100キロ完歩 喜び格別

十日町の小学生22人

○…「イー二、イチ二の歩調」コールが今夏も響いた。キナーレを発見にもつなげてもらおうと、4泊5日で共同生活した同旅。それを支える

ながら歩く「越後つまり100キロ徒步の旅」が行われた。十日町市の小学生計22人が懸命に歩を進めた。

西小学校6年の野沢アテネ君(11)は「1日目でやめたいと思ったけど、お母さんが応援してくれている人が懸命に歩を進めた。『と思って頑張った』と話した。



強い日差しが照りつける中、100キロの徒步の旅に挑んだ子どもたち=10日、十日町市

委員会が主催し8回目。そいのかさをかぶった子どもたちは「1、2、そーれ」などと声を出して励まし合い、毎日約20キロを歩いた。11日には十日町市本町6のキナーレでゴールを迎えた。参加者全員が完歩し、家族らと喜び合った。

2回目の参加となつた西小学校6年の野沢アテネ君(11)は「1日目でやめたいと思ったけど、お母さんが応援してくれている人が懸命に歩を進めた。『と思って頑張った』と話した。

■ 2016.8.18 十日町タイムス

感動と涙のゴール

「100歩」参加者みんなが成長

○…ネバーギアアップ歩くが7月11日の4会（澤野崇会長）。

県の成功は限界の先にあら三度立をかぶつた子が達が元気に要有を歩く「越後つまり100歩」徒歩の旅（100歩）主催は同実行委員

生22人と学生スタッフ22人があ無事にゴールを果たした。主催は同実行委員

会（澤野崇会長）。

○…地域教育の一環として子ども達の「生きる力」を育てよう「スター

トした100歩。今年で実行委員会を設立し6回目、十日町JC主催か

ら数えると8回目の開催となる。

○…親元を離れ、仲間と地域の小学校に宿泊し地元の蔵品教育長

（写真上）勢いよくゴールテープをきる子ども達（左）津南までの20キロを歩いた蔵品教育長



越後つまり100キロ
徒歩の旅（澤野崇実行委員会会長）が夏休み恒例のイベントとして6回目を迎えた。7日にキナーレを始められた100キロ

を出発して、11日にキナーレにゴールした。私たちの地域の子ども達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

ながらの5日間、子ども達は大きく成長した。学

校を4泊5日で踏破した。

7日前8時にキナーレを出発した一行は、諏訪神社を参拝して100

キの旅の無事を祈り、移動トイレや水分補給の中

で同行するJCOBや

ボランティアの大學生が

100キロの旅を支援し

た。

○…ケループから遅れ

た子ども達をサポートす

るセーフティネット班と

サポートしながら35度

を超える猛暑や大雨を乗り越え、全員がゴール

島治樹さん（十歳3年）

は「懶みっぱなしの5日

間だった。助けてきた子

た藤田はなさん（貞野小

ども達が無事にゴールし

た時は涙が止まらなかつ

た。仲間がいるから

ら5日間が短く感じた。

なってからも活かした

いい」とゴールと共に顔を

クシャクシャにしてい



「最後の一歩」の掛け声でゴール

■ 2016.8.25 十日町新聞

小学生25人が100%を踏破

—越後妻有100キロ徒歩の旅—

4泊5日で十日町市・津南町を巡る

徒歩の旅（澤野崇実行委員会会長）が夏休み恒例のイベントとして6回目を迎えた。7日にキナーレを始められた100キロ

を出発して、11日にキナーレにゴールした。

私たちの地域の子ども達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう

達は私たちの手で育てよう



「最後の一歩」の掛け声でゴール

の旅は、十日町JC主催から数えると8回目の開

かれで大きな声で号令を掛けながら元気に入場、ゴール地点で「最後の一歩」と叫んでゴールプレーを切っていた。

そうに待つ中、4班に分かれで大きな声で号令を掛けながら元気に入場、ゴール地点で「最後の一歩」と叫んでゴールプレーを切っていた。

町を4泊5日で踏破した。

7日前8時にキナーレを出発した一行は、諏訪神社を参拝して100

キの旅の無事を祈り、移動トイレや水分補給の中

で同行するJCOBや

ボランティアの大學生が

100キロの旅を支援し

た。

はるか たび
遙かなる旅2012ver.

きみ お ぼく お
君は追いかけた僕も追いかけてた

あ おも ぼく ちから か
ぶつかり合う思いが僕の力に変わる

すべ ひと ひかり
全てじゃなくていい一つだけの光

かさ あ すす ゆめ さき つな
重ね合わせて進め夢を先へ繋いでいく

はる はる たびじ とちゅう そら くも ほし み あ
遙か遙か旅路の途中 空を雲を見上げた

ぼく たす あ ひ ゆめ つづ
もしも僕ら助け合えれば たどり着けるさ あの日みた夢の続きへ

ゆめ め まえ たか げんじつ かべ と こ さき ひろ あら みらい
夢の目の前に高い現実の壁 飛び越えたその先に広がる新たな未来

かな 悲しいときもある 苦しいときもある

にぎ みぎ て たか たか つ あ
握りしめた右手を高く高く突き上げて

はる はる たびじ とちゅう そら くも ほし み あ
遙か遙か旅路の途中 空を雲を見上げた

つよ よわ みと あ ひ ゆめ つづ
強さ弱さを認め合えれば たどり着けるさ あの日みた夢の続きへ

ゆめ お ゆめ お か みち みち とちゅう
夢を追いかけた... 夢を追い掛けてた... 道なき道の途中

な わら ひっし
泣いた 笑った 必死だった！

はる はる たびじ とちゅう そら くも ほし み あ ぼく ぼく あきら
遙か遙か旅路の途中 空を雲を見上げた 僕は僕は諦めないよ

いつも...今だって追いかけて はる かなた たびじ は
遥か 彼方 旅路の果てに

たどり着けるさ ひ ゆめ つづ
あの日みた夢の続きへ

(順不同・敬称略)

■協力■

公益社団法人 十日町青年会議所

■後援■

十日町市 津南町 十日町市教育委員会 津南町教育委員会
越後妻有交流館キナーレ エフエムとおかまち 十日町新聞社
十日町タイムス社 妻有新聞社 全国100km徒歩の旅

■賛助頂いた皆様■

(株) アイムス 阿部善商店 井川建設(株) (株) イイキ 井沢塗装
池田和弘事務所 (株) 魚沼 (有) エーデルワイス工芸社 (有) エグゼ(サバス)
(株) エビズヤ (有) 大島土木 大島電気(株) 大村建設(株) 勝坊
小川自動車(株) (株) 大野屋重機建設 (株) カネコ商会 釜と七厘
(有) 加久田工業 (有) 蕎金板金店 学校法人十日町女学園 (株) 割烹やまだ屋
(株) きものブレイン (有) きさらぎ (株) 共立舗装 (有) 協和電業
清津開発(株) (株) 共和自動車 (株) 吉楽土建 (株) 児玉建設
(株) クリエートきもの絹都 (株) クローバーフォー こじま寿司 佐藤建築
(株) 三高土木 (有) 佐野写真館 司法書士樋口事務所 (株) 田村自動車
スリーエスシステム(株) 十日町砂利(株) 十日町タクシー(株) 成ル
十日町電設工業(株) 高橋昇男税理士事務所 千原株式会社・和の風
(株) 十日町新聞社 (有) 十日町パート (有) 遠田設備 (株) 中山建工
(株) 二瓶砂利 庭又板金店 (株) 新潟ソフトストラクチャ (有) 花せん
服部塗装興業 (有) 服部総業 (有) 花水農産 林家旅館 B A R R y u k
(株) 富剛建設 (株) 福島建設 (株) 二葉家 (株) フラワーホーム
(有) ブレイン プログタウン (株) ベストライフ 丸松工具(株) 蓮
(有) 丸池工務店 (有) マルミ電化サービス (株) まるやま
水落会計事務所 (株) ミナミ商会 (有) ミナミ代行運輸 養老乃瀧
(有) ミヤコウドリーム (株) 村熊商店 (株) 村山商会 やきとり大吉
モダン食堂K I C H I 焼肉ひやら (株) 柳庄商店 (株) 吉田商会
(有) 涌井工業

池田泰助 桑原善雄 澤野敏子 関 雅夫 田村典之 南雲 革
羽鳥淳也 丸山 浩 吉澤政敏

■物品協力頂いた皆様■

衣料のかみしん 越後妻有のごちそう家ごったく (株) シーアイシー
(株) 関口製菓 (株) ムラオ (有) 大地 焼肉ひやら 江村かおる

■お世話になった学校・施設・会社・団体■

津南小学校 旧中津小学校 芦ヶ崎小学校 田沢小学校 吉田小学校
上野小学校 笹山縄文館 越後妻有交流館キナーレ 諏訪神社 (株)上島
(株)新潟ソフトストラクチャ (株)富剛建設 (有)服部総業 (有)大地
津南町観光協会 龍ヶ窪 越後田中駅 マウテンパーク津南 旅館雪国
清津開発(株) 辰ノ口集会所 ミオンなかさと (有)涌井工業
吉田公民館 千手中央コミュニティセンター ナカゴグリンパーク
(株)谷内製材 神宮寺 (株)村山興業 (株)小泉工業
一般財団法人十日町地域地場産業振興センター セブンイレブン福田屋

■助成■

子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)

越後つまり100km徒步の旅実行委員会

役 職 名	氏 名	勤 務 先
会長	澤野 崇	十日町社会保険労務協会
副会長	高橋 豪	清津開発(株)
実行委員長	上村 友博	(株)上島
事務長	山田 剛	山田建工(株)
事務長補佐	大島 博	大島電気(株)
委員	武藤 武康	丸松工具(株) 十日町店
委員	服部 和雄	(有)十日町パーツ
委員	久保田 学	NPO法人支援センターあんしん
委員	高橋 剛	十日町市役所
委員	吉楽 健一	社会福祉法人東頸福祉会
委員	樋口 清蘭	津南町役場
委員	船木 康平	津南町役場
委員	小山 大志	(有)小山土木
監事	水落 雅史	水落雅史税理士事務所
監事	高橋 昇男	高橋昇男税理士事務所

木の芽がある
喜び成功は
木べーキャンアツ



越後つまり 100km 徒歩の旅実行委員会

〒949-8524 新潟県十日町市馬場丙1505 (株)上島内

TEL: 025-758-2033 FAX: 025-758-2505

URL: <http://echi100km.main.jp/>

E-mail: info@echi100km.main.jp

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」